

大学番号：私立専大008

[平成31年度設置]

計画の区分：大学の設置

認可

高知リハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部
リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 高知学園
令和2年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課） 庶務課

職名・氏名 課長 ナカヒラ 中平 ケンイチ 憲一

電話番号 088-850-2311

（夜間） 088-850-2311

F A X 088-850-2323

e-mail nakahira@kochireha.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・大学の設置の場合：「〇〇大学」

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」

・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和2年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

リハビリテーション学部

＜リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	15
4. 既設大学等の状況	16
5. 教員組織の状況	17
6. 附帯事項等に対する履行状況等	31
7. その他全般的事項	39
補足説明資料（専門職大学等）	43

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 高知学園

(2) 大学名

高知リハビリテーション専門職大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒781-1102

高知県土佐市高岡町乙1139-3

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(キラ マサヒト) 吉良 正人 (平成26年8月)		
学長	(オジマ ユタカ) 小嶋 裕 (平成31年4月)		
学部長	(オオクラ ミツヒロ) 大倉 三洋 (平成31年4月)		
学科長等	(タガシラ カツユキ) 田頭 勝之 (平成31年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)
令和2年度に報告する内容 → (2)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。）
- ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
リハビリテーション学部	保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)	4	150	—	600	
リハビリテーション学科		4	150	—	600	
理学療法学専攻 理学療法学士(専門職)		4	70	—	280	
作業療法学専攻 作業療法学士(専門職)		4	40	—	160	
言語聴覚学専攻 言語聴覚学士(専門職)		4	40	—	160	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

リハビリテーション学部 リハビリテーション学科

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定 員超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 150 (-) [-]	人 (-) [-]	人 150 (-) [-]	人 (-) [-]	0.83倍	-	
志願者数	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	152 (-) [-]	(-) [-]	131 (-) [-]	(-) [-]			
受験者数	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	147 (-) [-]	(-) [-]	130 (-) [-]	(-) [-]			
合格者数	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	139 (-) [-]	(-) [-]	127 (-) [-]	(-) [-]			
B 入学者数	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	132 (-) [-]	(-) [-]	119 (-) [-]	(-) [-]			
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	0.88	-	0.79	-			

リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定 員超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 40 (-) [-]	人 (-) [-]	人 40 (-) [-]	人 (-) [-]	0.75倍	-	
志願者数	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	33 (-) [-]	(-) [-]	31 (-) [-]	(-) [-]			
受験者数	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	31 (-) [-]	(-) [-]	31 (-) [-]	(-) [-]			
合格者数	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	34 (-) [-]	(-) [-]	30 (-) [-]	(-) [-]			
B 入学者数	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	31 (-) [-]	(-) [-]	29 (-) [-]	(-) [-]			
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	0.78	-	0.73	-			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ 転入学生は記入しないでください。
 - ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 - ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様に行ってください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

リハビリテーション学部 リハビリテーション学科

対象年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	132 [—] (—)	— [—] (—)	119 [—] (—)	— [—] (—)	
2年次	/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	124 [—] (—)	— [—] (—)	
3年次			/		/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)
4年次	/						/		/		— [—] (—)
計			— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)					— [—] (—)

リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻

対象年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	31 [—] (—)	— [—] (—)	29 [—] (—)	— [—] (—)	
2年次	/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	29 [—] (—)	— [—] (—)	
3年次			/		/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)
4年次	/						/		/		— [—] (—)
計			— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)					— [—] (—)

・令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

リハビリテーション学部 リハビリテーション学科

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成28年度	— 人	— 人	平成28年度	— 人	— 人	
平成29年度	— 人	— 人	平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
平成30年度	— 人	— 人	平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
令和元年度	132 人	8 人	平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	8 人	— 人	就学意欲の低下(6人)、経済的理由(2人)
令和2年度	243 人	0 人	平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
合計		8 人		8 人	0 人	

リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成28年度	— 人	— 人	平成28年度	— 人	— 人	
平成29年度	— 人	— 人	平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
平成30年度	— 人	— 人	平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
令和元年度	31 人	2 人	平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	2 人	— 人	就学意欲の低下(2人)
令和2年度	58 人	0 人	平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
合計		2 人		2 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

リハビリテーション学部 リハビリテーション学科

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{8}{132} = \boxed{6.06} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{243} = \boxed{0} \%$$

リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{31} = \boxed{6.45} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{58} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	探求の人間の	心理学	1前	2								2
		教育学	1前・後	2								1
		生命倫理	3前	2								2
	探求の社会の	コミュニケーション論	1前・後	2			1					
		社会学	1前	2								1
		リーダーシップ論	4後	1								1
	探求の地域の	国際関係論	4後	2								1
		地域課題研究 I	2後	1			2					
	探求の自然の	地域課題研究 II	3通	1			7	9	7	3		
		生物学	1前	2								1
		数学	1後	1								1
		物理学	1後	1								1
		統計学	1後	2								1
		情報処理演習 I	1前	1			1		1			
	探求の健康の	情報処理演習 II	1後	1			1		1			
		健康科学	1前	1			2					
探求の外国語の	健康とスポーツ【※】	1前・後	1								3	
	英語 I	1前・後	2			1						
	英語 II	1前・後	1			1						
	英会話	1前・後	1								1	
小計(21科目)	中国語	1前・後	1								1	
		-	13	17	0	9	9	8	3	0	16	
職業専門科目	基礎医学	医学英語	2前	1								1
		解剖学 I (総論・神経系)	1前	1			1					1
		解剖学 II (内臓・脈管系)	1前	1			1					1
		解剖学 III (骨格系)	1後	1			1					1
		解剖学 IV (筋系)	1後	1			1					1
		生理学 I (動物性機能)	1前	1								3
		生理学 II (植物性機能)	1後	1								3
		運動生理学	1後	1			2					
		運動生理学実習【※】	2前	1			2	1		1		
		基礎運動学	1後	2			1					
		運動機能学実習【※】	2前	1			1	1		1		
		理学療法	2前	1			1			1		
		運動学演習	2前	1			1			2		
		作業療法	2前	1			1					
	運動学演習	2前	1			1						
	人間発達学	1後	1								1	
	小計(14科目)	-	5	10	0	6	2	0	3	0	8	
	臨床医学	医学概論	1後	1								1
		病理学	1後	1								1
		内科学	2後	2								4
整形外科		2後	2			1						
臨床神経学		2前・後	2								2	
精神医学		2前	2								3	
小児科学		2後	1								4	
リハビリテーション医学		2前・後	1								1	
臨床心理学		2前	2								3	
耳鼻咽喉科学		2前	2								1	
形成外科学		3前	1								1	
臨床歯科医学		3前	1								1	
画像診断学		3前	1								1	
臨床栄養学		3前	1								1	
臨床薬理学		3前	1								1	
救急管理実習【※】		3前・後	1								1	
小計(16科目)	-	11	11	0	1	0	0	0	0	0	24	

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	探求の人間の	心理学	1前	2								2
		教育学	1前・後	2								1
		生命倫理	3前	2								2
	探求の社会の	コミュニケーション論	1前・後	2			1					
		社会学	1前	2								1
		リーダーシップ論	4後	1								1
	探求の地域の	国際関係論	4後	2								1
		地域課題研究 I	2後	1			2					
	探求の自然の	地域課題研究 II	3通	1			7	9	7	3		
		生物学	1前	2								1
		数学	1後	1								1
		物理学	1後	1								1
		統計学	1後	2								1
		情報処理演習 I	1前	1			1		1			
	探求の健康の	情報処理演習 II	1後	1			1		1			
		健康科学	1前	1			2					
探求の外国語の	健康とスポーツ【※】	1前・後	1								3	
	英語 I	1前・後	2			1						
	英語 II	1前・後	1			1						
	英会話	1前・後	1								1	
小計(21科目)	中国語	1前・後	1								1	
		-	13	17	0	9	9	8	3	0	16	
職業専門科目	基礎医学	医学英語	2前	1								1
		解剖学 I (総論・神経系)	1前	1			1					1
		解剖学 II (内臓・脈管系)	1前	1			1					1
		解剖学 III (骨格系)	1後	1			1					1
		解剖学 IV (筋系)	1後	1			1					1
		生理学 I (動物性機能)	1前	1								3
		生理学 II (植物性機能)	1後	1								3
		運動生理学	1後	1			2					
		運動生理学実習【※】	2前	1			2	1		1		
		基礎運動学	1後	2			1					
		運動機能学実習【※】	2前	1			1	1		1		
		理学療法	2前	1			1			1		
		運動学演習	2前	1			1			2		
		作業療法	2前	1			1					
	運動学演習	2前	1			1						
	人間発達学	1後	1								1	
	小計(14科目)	-	5	10	0	6	2	0	3	0	8	
	臨床医学	医学概論	1後	1								1
		病理学	1後	1								1
		内科学	2後	2								4
整形外科		2後	2			1						
臨床神経学		2前・後	2								3	
精神医学		2前	2								3	
小児科学		2後	1								4	
リハビリテーション医学		2前・後	1								1	
臨床心理学		2前	2								3	
耳鼻咽喉科学		2前	2								1	
形成外科学		3前	1								1	
臨床歯科医学		3前	1								1	
画像診断学		3前	1								1	
臨床栄養学		3前	1								1	
臨床薬理学		3前	1								1	
救急管理実習【※】		3前・後	1								1	
小計(16科目)	-	11	11	0	1	0	0	0	0	0	24	

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
職業専門科目	リハビリテーション概論	1前・後	1			2						
	社会福祉概論	1前・後	2								1	2
	地域包括ケア論	3後	2									1
	チーム連携論	4前	1									1
	小計(4科目)	-	6	0	0	2	0	0	0	0	0	4
職業専門科目	言語聴覚障害学総論Ⅰ	1前	2			1	1					
	言語聴覚障害学総論Ⅱ	1後	2			1	1					
	失語症学	1後	2									1
	聴覚系医学	2前	2									2
	音声・言語系医学	2後	2									3
	発達心理学	2後	1									1
	言語学	2前	2									1
	音声学	2後	2									1
	音響学(聴覚心理学を含む)	2後	2									1
	聴覚障害学	2前	2									1
	音声障害学実習【※】	2後	1			1						
	学習・認知心理学	3前	1									1
	言語発達学	3前	1			1						
	高次脳機能障害学	3前	1			1		1				1
	言語発達障害学	3前	1							1		1
	重複障害学	3後	1			1						1
	学習障害・広汎性発達障害学	3前	1			1						1
	機能性構音障害学実習【※】	3前	1			1						
	器質性構音障害学実習【※】	3前	1									1
	運動障害性構音障害学実習【※】	3後	1									1
	吃音学	3前	1									1
	嚥下障害学実習【※】	3前	1									2
	補聴器・人工内耳学	3前	2									1
	言語聴覚療法セミナーⅠ	2通	1					2				
	言語聴覚療法セミナーⅡ	3通	1					2				
	小計(25科目)	-	35	0	0	1	2	2	1	0	20	
職業専門科目	言語発達障害検査実習【※】	2前	1			1	1					
	言語発達障害評価実習【※】	2後	1			1	1					
	聴覚検査学	2後	2									1
	聴覚障害学検査実習【※】	2後	1									1
	失語・高次脳機能障害検査実習【※】	3前	1				1					1
	失語・高次脳機能障害評価実習【※】	3後	1			1						
	発声発語・嚥下障害検査実習【※】	3前	1				1					1
	発声発語・嚥下障害評価実習【※】	3後	1				1					1
	心理測定法実習【※】	3後	1									1
	小計(9科目)	-	10	0	0	0	2	2	0	0	4	
職業専門科目	言語聴覚療法技術実習Ⅰ(言語発達障害)【※】	3後	1				1					
	言語聴覚療法技術実習Ⅱ(高次脳機能障害)【※】	3後	1					1				1
	言語聴覚療法技術実習Ⅲ(失語)【※】	4前	1				1					1
	言語聴覚療法技術実習Ⅳ(発声発語・嚥下障害)【※】	4前	1				1					1
		小計(4科目)	-	4	0	0	0	2	1	0	0	3
職業専門科目	言語聴覚療法臨床実習Ⅰ【臨】	2後	1			1	2	2	1			
	言語聴覚療法臨床実習Ⅱ【臨】	3後	3			1	2	2	1			
	言語聴覚療法臨床実習Ⅲ【臨】	4前	16			1	2	2	1			
		小計(3科目)	-	20	0	0	1	2	2	1	0	0

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
職業専門科目	リハビリテーション概論	1前・後	1			2						
	社会福祉概論	1前・後	2									1
	地域包括ケア論	3後	2									2
	チーム連携論	4前	1									1
	小計(4科目)	-	6	0	0	2	0	0	0	0	0	4
職業専門科目	言語聴覚障害学総論Ⅰ	1前	2			1	1					
	言語聴覚障害学総論Ⅱ	1後	2			1	1					
	失語症学	1後	2									1
	聴覚系医学	2後	2									3
	音声・言語系医学	2後	2									3
	発達心理学	2後	1									1
	言語学	2前	2									1
	音声学	2後	2									1
	音響学(聴覚心理学を含む)	2後	2									1
	聴覚障害学	2前	2									1
	音声障害学実習【※】	2後	1			1						
	学習・認知心理学	3前	1									1
	言語発達学	3前	1			1						
	高次脳機能障害学	3前	1			1		1				1
	言語発達障害学	3前	1							1		1
	重複障害学	3後	1			1						1
	学習障害・広汎性発達障害学	3前	1			1						1
	機能性構音障害学実習【※】	3前	1			1						
	器質性構音障害学実習【※】	3前	1									1
	運動障害性構音障害学実習【※】	3後	1									1
	吃音学	3前	1									1
	嚥下障害学実習【※】	3前	1									2
	補聴器・人工内耳学	3前	2									1
	言語聴覚療法セミナーⅠ	2通	1						2			
	言語聴覚療法セミナーⅡ	3通	1						2			
	小計(25科目)	-	35	0	0	1	2	2	1	0	20	
職業専門科目	言語発達障害検査実習【※】	2前	1			1	1					
	言語発達障害評価実習【※】	2後	1			1	1					
	聴覚検査学	2後	2									1
	聴覚障害学検査実習【※】	2後	1									1
	失語・高次脳機能障害検査実習【※】	3前	1				1					1
	失語・高次脳機能障害評価実習【※】	3後	1			1						
	発声発語・嚥下障害検査実習【※】	3前	1				1					1
	発声発語・嚥下障害評価実習【※】	3後	1				1					1
	心理測定法実習【※】	3後	1									1
	小計(9科目)	-	10	0	0	0	2	2	0	0	4	
職業専門科目	言語聴覚療法技術実習Ⅰ(言語発達障害)【※】	3後	1				1					
	言語聴覚療法技術実習Ⅱ(高次脳機能障害)【※】	3後	1					1				1
	言語聴覚療法技術実習Ⅲ(失語)【※】	4前	1				1					1
	言語聴覚療法技術実習Ⅳ(発声発語・嚥下障害)【※】	4前	1				1					1
		小計(4科目)	-	4	0	0	0	2	1	0	0	3
職業専門科目	言語聴覚療法臨床実習Ⅰ【臨】	2後	1			1	2	2	1			
	言語聴覚療法臨床実習Ⅱ【臨】	3後	3			1	2	2	1			
	言語聴覚療法臨床実習Ⅲ【臨】	4前	16			1	2	2	1			
		小計(3科目)	-	20	0	0	1	2	2	1	0	0

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数							専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教員	准教授	講師	助教	助手	教員	准教授	講師		助教
言語聴覚療法展開科目群	地域福祉活動論	1前	1												1
	マンガ概論	1前	2												1
	マンガ基礎実習【※】	1前	1												1
	活字デザイン論	1後	2												1
	視覚デザイン概論	2前	2												1
	カラーコミュニケーション概論	2前	2												1
	視覚伝達デザイン論	2後	2												1
	情報メディア学入門	2後	2												1
	広告論	3前	2												1
	企業広報活動論	3前	2												1
小計(11科目)	-	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	
応用言語聴覚学	言語聴覚療法地域支援実習【※】	4後	1				1	2	2	1					
	応用言語聴覚学演習	4後	2				1	2	2						
	言語聴覚療法総合演習Ⅰ	4後	1				1								1
	言語聴覚療法総合演習Ⅱ	4後	1						1						
	言語聴覚療法総合演習Ⅲ	4後	1						1						
小計(5科目)	-	3	3	0	1	2	2	1	0	1					
合計(112科目)			-	127	41	0	13	9	8	4	0	78			
卒業要件及び履修方法															
<p>【言語聴覚学専攻】</p> <p>①基礎科目では、「人間の探求」、「社会の探求」、「地域の探求」、「自然の探求」、「健康の探求」の17科目25単位から必修11単位と「統計学」の2単位を含め17単位以上、「外国語の探求」の4科目5単位から必修2単位を含め3単位以上をそれぞれ修得する。</p> <p>②職業専門科目では、「基礎医学」の14科目15単位から必修5単位、「臨床医学」の16科目22単位から必修11単位と、「医学概論」「耳鼻咽喉科学」「形成外科学」「臨床歯科医学」の5単位を含め16単位以上、「保健医療福祉の理念」の4科目6単位から必修6単位、「基礎言語聴覚学」の25科目35単位から必修35単位、「言語聴覚療法評価学」の9科目10単位から必修10単位、「言語聴覚療法治療学」の4科目4単位から必修4単位、「言語聴覚療法臨床実習」の3科目20単位から必修20単位をそれぞれ修得する。</p> <p>③展開科目では、「言語聴覚療法展開科目群」の11科目20単位から必修20単位を修得する。</p> <p>④総合科目では、「応用言語聴覚学」の5科目6単位から必修3単位を含め4単位以上をそれぞれ修得する。</p> <p>⑤卒業要件単位数は合計140単位以上を修得する。</p> <p>(履修科目の登録上の上限:48単位/年間)</p>															

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数							専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教員	准教授	講師	助教	助手	教員	准教授	講師		助教
言語聴覚療法展開科目群	地域福祉活動論	1前	1												1
	マンガ概論	1前	2												1
	マンガ基礎実習【※】	1前	1												1
	活字デザイン論	1後	2												1
	視覚デザイン概論	2前	2												1
	カラーコミュニケーション概論	2前	2												1
	視覚伝達デザイン論	2後	2												1
	情報メディア学入門	2後	2												1
	広告論	3前	2												1
	企業広報活動論	3前	2												1
小計(11科目)	-	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	
応用言語聴覚学	言語聴覚療法地域支援実習【※】	4後	1				1	2	2	1					
	応用言語聴覚学演習	4後	2				1	2	2						
	言語聴覚療法総合演習Ⅰ	4後	1				1								1
	言語聴覚療法総合演習Ⅱ	4後	1						1						
	言語聴覚療法総合演習Ⅲ	4後	1						1						
小計(5科目)	-	3	3	0	1	2	2	1	0	1					
合計(112科目)			-	127	41	0	13	9	8	4	0	79			
卒業要件及び履修方法															
<p>【言語聴覚学専攻】</p> <p>①基礎科目では、「人間の探求」、「社会の探求」、「地域の探求」、「自然の探求」、「健康の探求」の17科目25単位から必修11単位と「統計学」の2単位を含め17単位以上、「外国語の探求」の4科目5単位から必修2単位を含め3単位以上をそれぞれ修得する。</p> <p>②職業専門科目では、「基礎医学」の14科目15単位から必修5単位、「臨床医学」の16科目22単位から必修11単位と、「医学概論」「耳鼻咽喉科学」「形成外科学」「臨床歯科医学」の5単位を含め16単位以上、「保健医療福祉の理念」の4科目6単位から必修6単位、「基礎言語聴覚学」の25科目35単位から必修35単位、「言語聴覚療法評価学」の9科目10単位から必修10単位、「言語聴覚療法治療学」の4科目4単位から必修4単位、「言語聴覚療法臨床実習」の3科目20単位から必修20単位をそれぞれ修得する。</p> <p>③展開科目では、「言語聴覚療法展開科目群」の11科目20単位から必修20単位を修得する。</p> <p>④総合科目では、「応用言語聴覚学」の5科目6単位から必修3単位を含め4単位以上をそれぞれ修得する。</p> <p>⑤卒業要件単位数は合計140単位以上を修得する。</p> <p>(履修科目の登録上の上限:48単位/年間)</p>															

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	人間の探求	心理学	1前	2								2
		教育学	1前・後	2								1
		生命倫理	3前	2								2
	社会の探求	コミュニケーション論	1前・後	2				1				
		社会学	1前	2								1
		リーダーシップ論	4後	1								1
	地域の探求	国際関係論	4後	2								1
		地域課題研究 I	2後	1				2				
	自然の探求	地域課題研究 II	3通	1			7	9	7	3		
		生物学	1前	2								1
		数学	1後	1								1
		物理学	1後	1								1
		統計学	1後	2								1
	探求の外国語	情報処理演習 I	1前	1			1		1			
情報処理演習 II		1後	1			1		1				
健康の探求	健康科学	1前	1			2						
	健康とスポーツ【※】	1前・後	1								3	
英語	英語 I	1前・後	2			1						
	英語 II	1前・後	1			1						
	英会話	1前・後	1								1	
	中国語	1前・後	1								1	
小計(21科目)	-	-	13	17	0	9	9	8	3	0	16	
職業専門科目	基礎医学	医学英語	2前	1								1
		解剖学 I (総論・神経系)	1前	1			1					1
		解剖学 II	1前	1			1					1
		解剖学 III (骨格系)	1後	1			1					1
		解剖学 IV (筋系)	1後	1			1					1
		生理学 I (動物性機能)	1前	1								3
		生理学 II (植物性機能)	1後	1								3
		運動生理学	1後	1			2					
		運動生理学実習【※】	2前	1			2	1		1		
		基礎運動学	1後	2			1					
		運動機能学実習【※】	2前	1			1	1		1		
		理学療法	2前	1			1			1		
		運動学演習	2前	1			1			2		
		作業療法	2前	1			1					
運動学演習	1後	1								1		
小計(14科目)	-	-	5	10	0	6	2	0	3	0	8	
臨床医学	医学概論	1後	1								1	
	病理学	1後	1								1	
	内科学	2後	2								4	
	整形外科	2後	2			1						
	臨床神経学	2前・後	2								2	
	精神医学	2前	2								3	
	小児科学	2後	1								4	
	リハビリテーション医学	2前・後	1								1	
	臨床心理学	2前	2								3	
	耳鼻咽喉科学	2前	2								1	
	形成外科学	3前	1								1	
	臨床歯科医学	3前	1								1	
	画像診断学	3前	1								1	
	臨床栄養学	3前	1								1	
臨床薬理学	3前	1								1		
救急管理実習【※】	3前・後	1								1		
小計(16科目)	-	-	11	11	0	1	0	0	0	0	24	
保健医療福祉の理念	リハビリテーション概論	1前・後	1			2						
	社会福祉概論	1前・後	2								1	
	地域包括ケア論	3後	2								2	
	チーム連携論	4前	1								1	
	小計(4科目)	-	-	6	0	0	2	0	0	0	0	4

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
職業専門科目 専門基幹科目（言語聴覚学専攻）	言語聴覚障害学総論Ⅰ	1前	2			1	1					
	言語聴覚障害学総論Ⅱ	1後	2			1	1					
	失語症学	1後	2									1
	聴覚系医学	2前	2									2
	音声・言語系医学	2後	2									3
	発達心理学	2後	1									1
	言語学	2前	2									1
	音声学	2後	2									1
	音響学 (聴覚心理学を含む)	2後	2									1
	聴覚障害学	2前	2									1
	音声障害学実習【※】	2後	1				1					
	学習・認知心理学	3前	1									1
	言語発達学	3前	1				1					
	高次脳機能障害学	3前	1				1		1			1
	言語発達障害学	3前	1									1
	重複障害学	3後	1				1					1
	学習障害・広汎性発達障害学	3前	1				1					1
	機能性構音障害学実習【※】	3前	1				1					
	器質性構音障害学実習【※】	3前	1									1
	運動障害性構音障害学実習【※】	3後	1									1
	吃音学	3前	1									1
	嚥下障害学実習【※】	3前	1									2
	補聴器・人工内耳学	3前	2									1
	言語聴覚療法セミナーⅠ	2通	1						2			
	言語聴覚療法セミナーⅡ	3通	1						2			
小計(25科目)	-		35	0	0	1	2	2	1	0	20	
言語聴覚療法評価学	言語発達障害学検査実習【※】	2前	1				1	1				
	言語発達障害学評価実習【※】	2後	1				1	1				
	聴覚検査学	2後	2									1
	聴覚障害学検査実習【※】	2後	1									1
	失語・高次脳機能障害学検査実習【※】	3前	1					1				1
	失語・高次脳機能障害学評価実習【※】	3後	1				1					
	発声発語・嚥下障害学検査実習【※】	3前	1					1				1
	発声発語・嚥下障害学評価実習【※】	3後	1					1				1
心理測定法実習【※】	3後	1									1	
小計(9科目)	-		10	0	0	0	2	2	0	0	4	
言語聴覚療法	言語聴覚療法技術実習Ⅰ(言語発達障害)【※】	3後	1				1					
	言語聴覚療法技術実習Ⅱ(高次脳機能障害)【※】	3後	1					1				1
	言語聴覚療法技術実習Ⅲ(失語)【※】	4前	1				1					1
	言語聴覚療法技術実習Ⅳ(発声発語・嚥下障害)【※】	4前	1				1					1
小計(4科目)	-		4	0	0	0	2	1	0	0	3	
言語聴覚療法臨床実習	言語聴覚療法臨床実習Ⅰ【臨】	2後	1				1	2	2	1		
	言語聴覚療法臨床実習Ⅱ【臨】	3後	3				1	2	2	1		
	言語聴覚療法臨床実習Ⅲ【臨】	4前	16				1	2	2	1		
	小計(3科目)	-		20	0	0	1	2	2	1	0	0

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手	
言語聴覚療法展開科目群	地域福祉活動論	1前	1								1	
	マンガ概論	1前	2								1	
	マンガ基礎実習【※】	1前	1								1	
	活字デザイン論	1後	2								1	
	視覚デザイン概論	2前	2								1	
	カラーコミュニケーション概論	2前	2								1	
	視覚伝達デザイン論	2後	2								1	
	情報メディア学入門	2後	2								1	
	広告論	3前	2								1	
	企業広報活動論	3前	2								1	
	広告デザイン論	3前	2								1	
	小計(11科目)	-	20	0	0	0	0	0	0	0	9	
	応用言語聴覚学	言語聴覚療法地域支援実習【※】	4後	1			1	2	2	1		
		応用言語聴覚学演習	4後	2			1	2	2			
言語聴覚療法総合演習Ⅰ		4後	1			1						
言語聴覚療法総合演習Ⅱ		4後	1								1	
言語聴覚療法総合演習Ⅲ		4後	1					1				
小計(5科目)		-	3	3	0	1	2	2	1	0	1	
合計(112科目)			-	127	41	0	13	9	8	4	0	78

卒業要件及び履修方法

【言語聴覚学専攻】

①基礎科目では、「人間の探究」、「社会の探究」、「地域の探究」、「自然の探究」、「健康の探究」の17科目25単位から必修11単位と「統計学」の2単位を含め17単位以上、「外国語の探究」の4科目5単位から必修2単位を含め3単位以上をそれぞれ修得する。

②職業専門科目では、「基礎医学」の14科目15単位から必修5単位、「臨床医学」の16科目22単位から必修11単位と、「医学概論」「耳鼻咽喉科学」「形成外科学」「臨床歯科学」の5単位を含め16単位以上、「保健医療福祉の理念」の4科目6単位から必修6単位、「基礎言語聴覚学」の25科目35単位から必修35単位、「言語聴覚療法評価学」の9科目10単位から必修10単位、「言語聴覚療法治療学」の4科目4単位から必修4単位、「言語聴覚療法臨床実習」の3科目20単位から必修20単位をそれぞれ修得する。

③展開科目では、「言語聴覚療法展開科目群」の11科目20単位から必修20単位を修得する。

④総合科目では、「応用言語聴覚学」の5科目6単位から必修3単位を含め4単位以上をそれぞれ修得する。

⑤卒業要件単位数は合計140単位以上を修得する。

(履修科目の登録上の上限:48単位/年間)

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
 ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任・兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。
 (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) -②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

--

【令和2年度】

<ul style="list-style-type: none"> ・「健康科学」「理学療法概論」「運動療法学」「運動療法学実習」の科目については、専任教員(教授)2名を配置していたが、その内の1名が病氣治療中にて、主治医より勤務負担の軽減を指示されており、負担軽減が必要な状況の為それぞれの科目に対してもう1名の教員で対応するため教授の数を1名に変更した。 ・「臨床神経学」の兼任講師1名の開講回数が3回であるので、負担の軽減とより質の高い教育効果を得るため兼任講師を2名から3名に変更した。 ・「聴覚系医学」の基礎的な知識である聴器の構造と機能(生理)について、専門の医師による講義が望ましいとの担当教員2名からの意見もあり、兼任講師を2名から3名に変更をした。 ・「聴覚系医学」兼任講師1名が講義を行えるのが後期ということであり、学年が変わらない範囲であれば、実施時期が前期後期による大きな影響はないので開講時期を前期から後期に変更した。

- (注) ・ 2 (1) -① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
80	32	0	112	80	32	0	112	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: Δ1)

高知リハビリテーション専門職大学

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{112} = \boxed{} 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	運動場用地:高知学園 短期大学と共用 高知市福井町字宮の前 924-1他 距離:15km 車で約25分 ・運動場以外は 土佐市借用 (26,353.96㎡) 借用期間:20年以上			
	校 舎 敷 地	8,181.05 ㎡	— ㎡	— ㎡	8,181.05 ㎡				
	運 動 場 用 地	— ㎡	24,025.00 ㎡	— ㎡	24,025.00 ㎡				
	小 計	8,181.05 ㎡	24,025.00 ㎡	— ㎡	32,206.05 ㎡				
	そ の 他	18,172.91 ㎡	— ㎡	— ㎡	18,172.91 ㎡				
	合 計	26,353.96 ㎡	24,025.00 ㎡	— ㎡	50,378.96 ㎡				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	開設年度の専共用面積 変更のため(元) 校舎面積は講堂 兼 体育館を除く				
	9,168.42 ㎡ 1,357.57 (-1,199.59 ㎡)	— ㎡ 6,672.57 (-5,954.58 ㎡)	— ㎡ 1,120.28 (-2,014.26 ㎡)	9,168.42 ㎡ (9,168.42 ㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	20 室	16 室	21 室	1 室 (補助職員 一人)	— 室 (補助職員 一人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			大学全体			
	リハビリテーション学部リハビリテーション学科		35 室						
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体 図書・視聴 覚資料・機械・器具購 入数変更のため(元) (2)	
	リハビリ テーション学部	29,900 [1,775] 29,600 28,900 [1,730] (27,500 (-1,715))	89 [13] (87 [11])	1 [1] (1 [1])	845 835 815 (-805)	2,769 2,747 2,696 (-2,659)	110 (78)		
	計	29,900 [1,775] 29,600 28,900 [1,730] (27,500 (-1,715))	89 [13] (87 [11])	1 [1] (1 [1])	845 835 815 (-805)	2,769 2,747 2,696 (-2,659)	110 (78)		
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数		大学全体				
	594.35 ㎡	114 席	50,000 冊						
(7) 体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体				
	427.70 ㎡	該当なし							
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	・図書については設備 購入費を第2年次まで 計画的に整備する為、 これに合わせて第2年 次まで記載した ・電子ジャーナルデー タベースの整備運営費 は図書費に含まない
		教員1人当り研究費等	300 千円	300 千円	図書購入費	6,500 千円	2,500 千円	— 千円	
	共同研究費等	2,000 千円	2,000 千円	設備購入費	63,426 千円	27,000 千円	— 千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,550 千円	1,260 千円	1,260 千円	1,260 千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		資産運用収入・手数料収入・雑収入等である							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称										備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和2年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所在地	
高知リハビリテーション専門職大学											
リハビリテーション学部	4	150	-	600	-	0.83	0.79	-	平成31	高知県土佐市高岡町乙1139-3	
リハビリテーション学科	4	150	-	600	-	0.83	0.79	-	平成31	同上	
理学療法専攻	4	70	-	280	理学療法 学士 (専門職)	0.92	0.90	-	平成31	同上	
作業療法専攻	4	40	-	160	作業療法 学士 (専門職)	0.76	0.67	-	平成31	同上	
言語聴覚専攻	4	40	-	160	言語聴覚 学士 (専門職)	0.75	0.72	-	平成31	同上	
大学全体	4	150	-	600	-	0.83	0.79	-	-	-	
高知学園大学											
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和2年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所在地	
健康科学部	4	130	-	520	-	0.87	0.87	-	令和2	高知県高知市旭天神町292-26	
管理栄養学科	4	70	-	280	学士 (栄養学)	0.77	0.77	-	令和2	同上	
臨床検査学科	4	60	-	240	学士 (臨床検査学)	0.98	0.98	-	令和2	同上	
大学全体	4	130	-	520	-	0.87	0.87	-	-	-	
高知学園短期大学											
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和2年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所在地	
生活科学学科	2	-	-	80	短期大学士 (生活科学)	0.58	-	-	平成17	高知県高知市旭天神町292-26	令和2年4月学生募集停止
幼児保育学科	2	80	-	160	短期大学士 (幼児保育学)	0.98	1.00	-	平成17	同上	
医療衛生学科											
医療検査専攻	3	-	-	80	短期大学士 (臨床検査学)	1.11	-	-	平成18	同上	令和2年4月学生募集停止
歯科衛生専攻	3	-	-	80	短期大学士 (歯科衛生学)	0.81	-	-	平成18	同上	令和2年4月学生募集停止
歯科衛生学科	3	40	-	120	短期大学士 (歯科衛生学)	0.98	0.98	-	令和2	同上	令和2年4月学科名称変更
看護学科	3	60	-	180	短期大学士 (看護学)	1.12	1.12	-	平成20	同上	
短期大学全体	3	180	-	700	-	0.99	1.03	-	-	-	

(注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	小嶋 裕 (69) <平成31年4月> 博士(介護福祉・ ケアマネジメント学)	リハビリテーション概論
専	教授	大倉 三洋 (70) <平成31年4月> 博士(学術)	地域課題研究Ⅱ 健康科学 リハビリテーション概論 運動生理学 運動生理学実習
専	教授	高野 康夫 (69) <平成31年4月> 保健学博士	解剖学Ⅰ(総論・神経系) 解剖学Ⅱ(内臓・脈管系) 解剖学Ⅲ(骨格系) 解剖学Ⅳ(筋系)
専	教授	山崎 裕司 (55) <平成31年4月> 博士(医学)	地域課題研究Ⅱ 理学療法運動学演習
専	教授	辻 明 (71) <平成31年4月> 博士(工学)	地域課題研究Ⅱ 健康科学
専	教授	竹島 卓 (71) <平成31年4月> 博士(学術)	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ
専	教授	武内 和弘 (72) <平成31年4月> 歯学博士	“地域課題研究Ⅱ 言語聴覚障害学総論Ⅰ※ 言語聴覚障害学総論Ⅱ※ 機能性構音障害学実習 言語聴覚療法臨床実習Ⅰ 言語聴覚療法臨床実習Ⅱ 言語聴覚療法臨床実習Ⅲ 言語聴覚療法地域支援実習 応用言語聴覚学演習”
専	教授	玉井 健 (65) <平成31年4月> 博士(学術)	英語Ⅰ 英語Ⅱ
専	教授	清水 一 (71) <平成31年4月> Master of Science(米國)	作業療法運動学演習

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	小嶋 裕 (69) <平成31年4月> 博士(介護福祉・ ケアマネジメント学)	リハビリテーション概論
専	教授	大倉 三洋 (70) <平成31年4月> 博士(学術)	地域課題研究Ⅱ 健康科学 リハビリテーション概論 運動生理学 運動生理学実習
専	教授	高野 康夫 (70) <平成31年4月> 保健学博士	解剖学Ⅰ(総論・神経系) 解剖学Ⅱ(内臓・脈管系) 解剖学Ⅲ(骨格系) 解剖学Ⅳ(筋系)
専	教授	山崎 裕司 (55) <平成31年4月> 博士(医学)	地域課題研究Ⅱ 理学療法運動学演習
専	教授	辻 博明 (71) <平成31年4月> 博士(工学)	地域課題研究Ⅱ 健康科学
専	教授	竹島 卓 (71) <平成31年4月> 博士(学術)	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ
専	教授	武内 和弘 (72) <平成31年4月> 歯学博士	“地域課題研究Ⅱ 言語聴覚障害学総論Ⅰ※ 言語聴覚障害学総論Ⅱ※ 機能性構音障害学実習 言語聴覚療法臨床実習Ⅰ 言語聴覚療法臨床実習Ⅱ 言語聴覚療法臨床実習Ⅲ 言語聴覚療法地域支援実習 応用言語聴覚学演習”
専	教授	玉井 健 (65) <平成31年4月> 博士(学術)	英語Ⅰ 英語Ⅱ
専	教授	清水 一 (71) <平成31年4月> Master of Science(米國)	作業療法運動学演習

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	小嶋 裕 (70) <平成31年4月> 博士(介護福祉・ ケアマネジメント学)	リハビリテーション概論
専	教授	大倉 三洋 (71) <平成31年4月> 博士(学術)	地域課題研究Ⅱ 健康科学 リハビリテーション概論 運動生理学 運動生理学実習
専	教授	高野 康夫 (70) <平成31年4月> 保健学博士	解剖学Ⅰ(総論・神経系) 解剖学Ⅱ(内臓・脈管系) 解剖学Ⅲ(骨格系) 解剖学Ⅳ(筋系)
専	教授	山崎 裕司 (56) <平成31年4月> 博士(医学)	地域課題研究Ⅱ 理学療法運動学演習
専	教授	辻 博明 (72) <平成31年4月> 博士(工学)	地域課題研究Ⅱ 健康科学
専	教授	竹島 卓 (72) <平成31年4月> 博士(学術)	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ
専	教授	武内 和弘 (73) <平成31年4月> 歯学博士	“地域課題研究Ⅱ 言語聴覚障害学総論Ⅰ※ 言語聴覚障害学総論Ⅱ※ 機能性構音障害学実習 言語聴覚療法臨床実習Ⅰ 言語聴覚療法臨床実習Ⅱ 言語聴覚療法臨床実習Ⅲ 言語聴覚療法地域支援実習 応用言語聴覚学演習”
専	教授	玉井 健 (66) <平成31年4月> 博士(学術)	英語Ⅰ 英語Ⅱ
専	教授	清水 一 (72) <平成31年4月> Master of Science(米國)	作業療法運動学演習

高知リハビリテーション専門職大学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	相澤 徹 (56) <平成32年4月> 博士(医学)
		運動機能学実習 整形外科学
専任	教授	柳澤 健 (71) <平成32年4月> 博士(医学)
		地域課題研究Ⅱ
専	教授	宮川 哲夫 (65) <平成33年4月> 博士(医学)
		地域課題研究Ⅱ
専	准教授	石川 裕治 (57) <平成31年4月> 社会学士
		地域課題研究Ⅱ コミュニケーション論 言語聴覚障害学総論Ⅰ※ 言語聴覚障害学総論Ⅱ※ 音声障害学実習 高次脳機能障害学※ 失語・高次脳機能障害評価実習 言語聴覚療法技術実習Ⅲ(失語)※ 言語聴覚療法技術実習Ⅳ (発声発語・嚥下障害)※ 言語聴覚療法臨床実習Ⅰ 言語聴覚療法臨床実習Ⅱ 言語聴覚療法臨床実習Ⅲ 言語聴覚療法地域支援実習 応用言語聴覚学演習
専	准教授	福田 勤 (56) <平成31年4月> 修士(教育学) ※
		地域課題研究Ⅱ 言語発達学 重複障害学※ 学習障害・広汎性発達障害学※ 言語発達障害検査実習 言語発達障害評価実習 言語聴覚療法技術実習Ⅰ (言語発達障害) 言語聴覚療法臨床実習Ⅰ 言語聴覚療法臨床実習Ⅱ 言語聴覚療法臨床実習Ⅲ 言語聴覚療法地域支援実習 応用言語聴覚学演習 言語聴覚療法総合演習Ⅰ
専	准教授	片山 訓博 (47) <平成31年4月> 博士(学術)
		地域課題研究Ⅰ 地域課題研究Ⅱ
専	准教授	明崎 禎輝 (39) <平成31年4月> 博士(学術)
		地域課題研究Ⅱ
専	准教授	足立 一 (50) <平成33年4月> 修士(学術) ※
		地域課題研究Ⅱ
専	講師	平松 真奈美 (56) <平成31年4月> 修士(社会福祉学)
		地域課題研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	相澤 徹 (56) <平成32年4月> 博士(医学)
		運動機能学実習 整形外科学
専任	教授	柳澤 健 (71) <平成32年4月> 博士(医学)
		地域課題研究Ⅱ
専	教授	宮川 哲夫 (65) <平成33年4月> 博士(医学)
		地域課題研究Ⅱ
専	准教授	石川 裕治 (57) <平成31年4月> 社会学士
		地域課題研究Ⅱ コミュニケーション論 言語聴覚障害学総論Ⅰ※ 言語聴覚障害学総論Ⅱ※ 音声障害学実習 高次脳機能障害学※ 失語・高次脳機能障害評価実習 言語聴覚療法技術実習Ⅲ(失語)※ 言語聴覚療法技術実習Ⅳ (発声発語・嚥下障害)※ 言語聴覚療法臨床実習Ⅰ 言語聴覚療法臨床実習Ⅱ 言語聴覚療法臨床実習Ⅲ 言語聴覚療法地域支援実習 応用言語聴覚学演習
専	准教授	福田 勤 (56) <平成31年4月> 修士(教育学) ※
		地域課題研究Ⅱ 言語発達学 重複障害学※ 学習障害・広汎性発達障害学※ 言語発達障害検査実習 言語発達障害評価実習 言語聴覚療法技術実習Ⅰ (言語発達障害) 言語聴覚療法臨床実習Ⅰ 言語聴覚療法臨床実習Ⅱ 言語聴覚療法臨床実習Ⅲ 言語聴覚療法地域支援実習 応用言語聴覚学演習 言語聴覚療法総合演習Ⅰ
専	准教授	片山 訓博 (47) <平成31年4月> 博士(学術)
		地域課題研究Ⅰ 地域課題研究Ⅱ
専	准教授	明崎 禎輝 (39) <平成31年4月> 博士(学術)
		地域課題研究Ⅱ
専	准教授	足立 一 (50) <平成33年4月> 修士(学術) ※
		地域課題研究Ⅱ
専	講師	平松 真奈美 (56) <平成31年4月> 修士(社会福祉学)
		地域課題研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	相澤 徹 (57) <平成32年4月> 博士(医学)
		運動機能学実習 整形外科学
専任	教授	柳澤 健 (72) <平成32年4月> 博士(医学)
		地域課題研究Ⅱ
専	教授	宮川 哲夫 (66) <平成33年4月> 博士(医学)
		地域課題研究Ⅱ
専	准教授	石川 裕治 (58) <平成31年4月> 社会学士
		地域課題研究Ⅱ コミュニケーション論 言語聴覚障害学総論Ⅰ※ 言語聴覚障害学総論Ⅱ※ 音声障害学実習 高次脳機能障害学※ 失語・高次脳機能障害評価実習 言語聴覚療法技術実習Ⅲ(失語)※ 言語聴覚療法技術実習Ⅳ (発声発語・嚥下障害)※ 言語聴覚療法臨床実習Ⅰ 言語聴覚療法臨床実習Ⅱ 言語聴覚療法臨床実習Ⅲ 言語聴覚療法地域支援実習 応用言語聴覚学演習
専	准教授	福田 勤 (57) <平成31年4月> 修士(教育学) ※
		地域課題研究Ⅱ 言語発達学 重複障害学※ 学習障害・広汎性発達障害学※ 言語発達障害検査実習 言語発達障害評価実習 言語聴覚療法技術実習Ⅰ (言語発達障害) 言語聴覚療法臨床実習Ⅰ 言語聴覚療法臨床実習Ⅱ 言語聴覚療法臨床実習Ⅲ 言語聴覚療法地域支援実習 応用言語聴覚学演習 言語聴覚療法総合演習Ⅰ
専	准教授	片山 訓博 (48) <平成31年4月> 博士(学術)
		地域課題研究Ⅰ 地域課題研究Ⅱ
専	准教授	明崎 禎輝 (40) <平成31年4月> 博士(学術)
		地域課題研究Ⅱ
専	准教授	足立 一 (51) <平成33年4月> 修士(学術) ※
		地域課題研究Ⅱ
専	講師	平松 真奈美 (57) <平成31年4月> 修士(社会福祉学)
		地域課題研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	大塚 貴英 (51) <平成31年4月> 修士(社会福祉学)	地域課題研究Ⅱ
専	講師	篠田 かおり (43) <平成31年4月> 修士(教育学)	地域課題研究Ⅱ
専	講師	光内 梨佐 (39) <平成31年4月> 修士(医科学)	地域課題研究Ⅱ 言語聴覚療法セミナーⅠ 言語聴覚療法セミナーⅡ 失語・高次脳機能障害検査実習 発声発語・嚥下障害検査実習 発声発語・嚥下障害評価実習※ 言語聴覚療法技術実習Ⅱ (高次脳機能障害)※ 言語聴覚療法臨床実習Ⅰ 言語聴覚療法臨床実習Ⅱ 言語聴覚療法臨床実習Ⅲ 言語聴覚療法地域支援実習 応用言語聴覚学演習
専	講師	高地 正音 (48) <平成31年4月> 修士(工学)	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ
専	助教	石元 美知子 (63) <平成31年4月> 修士(文学)	地域課題研究Ⅱ 作業療法運動学演習 高次脳機能障害学※
専	助教	有光 一樹 (44) <平成31年4月> 修士(医科学)	地域課題研究Ⅱ 作業療法運動学演習
実専	准教授	濱田 和範 (62) <平成31年4月> 各種学校卒	地域課題研究Ⅱ
実専	准教授	福岡 忠勝 (48) <平成31年4月> 社会学士	地域課題研究Ⅱ
実専	講師	宮崎 登美子 (45) <平成31年4月> 学士(社会学)	地域課題研究Ⅱ
実専	助教	櫻木 理恵 (41) <平成31年4月> 専修学校卒	言語聴覚療法臨床実習Ⅰ 言語聴覚療法臨床実習Ⅱ 言語聴覚療法臨床実習Ⅲ 言語聴覚療法地域支援実習
実(研)	教授	田頭 勝之 (59) <平成32年4月> 博士(医療福祉学)	地域課題研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	大塚 貴英 (51) <平成31年4月> 修士(社会福祉学)	地域課題研究Ⅱ
専	講師	篠田 かおり (43) <平成31年4月> 修士(教育学)	地域課題研究Ⅱ
専	講師	光内 梨佐 (39) <平成31年4月> 修士(医科学)	地域課題研究Ⅱ 言語聴覚療法セミナーⅠ 言語聴覚療法セミナーⅡ 失語・高次脳機能障害検査実習 発声発語・嚥下障害検査実習 発声発語・嚥下障害評価実習※ 言語聴覚療法技術実習Ⅱ (高次脳機能障害)※ 言語聴覚療法臨床実習Ⅰ 言語聴覚療法臨床実習Ⅱ 言語聴覚療法臨床実習Ⅲ 言語聴覚療法地域支援実習 応用言語聴覚学演習
専	講師	高地 正音 (48) <平成31年4月> 修士(工学)	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ
専	助教	石元 美知子 (63) <平成31年4月> 修士(文学)	地域課題研究Ⅱ 作業療法運動学演習 高次脳機能障害学※
専	助教	有光 一樹 (44) <平成31年4月> 修士(医科学)	地域課題研究Ⅱ 作業療法運動学演習
実専	准教授	濱田 和範 (62) <平成31年4月> 各種学校卒	地域課題研究Ⅱ
実専	准教授	福岡 忠勝 (48) <平成31年4月> 社会学士	地域課題研究Ⅱ
実専	講師	宮崎 登美子 (45) <平成31年4月> 学士(社会学)	地域課題研究Ⅱ
実専	助教	櫻木 理恵 (41) <平成33年4月> 修士(医療福祉教育・管理)	言語聴覚療法臨床実習Ⅰ 言語聴覚療法臨床実習Ⅱ 言語聴覚療法臨床実習Ⅲ 言語聴覚療法地域支援実習
実(研)	教授	田頭 勝之 (59) <平成31年4月> 博士(医療福祉学)	地域課題研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	大塚 貴英 (52) <平成31年4月> 修士(社会福祉学)	地域課題研究Ⅱ
専	講師	篠田 かおり (44) <平成31年4月> 修士(教育学)	地域課題研究Ⅱ
専	講師	光内 梨佐 (40) <平成31年4月> 修士(医科学)	地域課題研究Ⅱ 言語聴覚療法セミナーⅠ 言語聴覚療法セミナーⅡ 失語・高次脳機能障害検査実習 発声発語・嚥下障害検査実習 発声発語・嚥下障害評価実習※ 言語聴覚療法技術実習Ⅱ (高次脳機能障害)※ 言語聴覚療法臨床実習Ⅰ 言語聴覚療法臨床実習Ⅱ 言語聴覚療法臨床実習Ⅲ 言語聴覚療法地域支援実習 応用言語聴覚学演習
専	講師	高地 正音 (49) <平成31年4月> 修士(工学)	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ
専	助教	石元 美知子 (64) <平成31年4月> 修士(文学)	地域課題研究Ⅱ 作業療法運動学演習 高次脳機能障害学※
専	助教	有光 一樹 (45) <平成31年4月> 修士(医科学)	地域課題研究Ⅱ 作業療法運動学演習
実専	准教授	濱田 和範 (63) <平成31年4月> 各種学校卒	地域課題研究Ⅱ
実専	准教授	福岡 忠勝 (49) <平成31年4月> 社会学士	地域課題研究Ⅱ
実専	講師	宮崎 登美子 (46) <平成31年4月> 学士(社会学)	地域課題研究Ⅱ
実専	助教	櫻木 理恵 (42) <平成33年4月> 修士(医療福祉教育・管理)	言語聴覚療法臨床実習Ⅰ 言語聴覚療法臨床実習Ⅱ 言語聴覚療法臨床実習Ⅲ 言語聴覚療法地域支援実習
実(研)	教授	田頭 勝之 (59) <平成31年4月> 博士(医療福祉学)	地域課題研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
実(研)	准教授	重島 晃史 (42) <平成31年4月> 博士(学術)	地域課題研究Ⅰ 地域課題研究Ⅱ 基礎運動学
実(研)	准教授	辻 美和 (45) <平成31年4月> 博士(学術)	地域課題研究Ⅱ
実(研)	講師	清岡 学 (58) <平成31年4月> 修士(心身健康科学)	地域課題研究Ⅱ
実(研)	講師	吉村 知佐子 (40) <平成31年4月> 修士(医科学)	地域課題研究Ⅱ 言語聴覚療法セミナーⅠ 言語聴覚療法セミナーⅡ 言語発達障害検査実習 言語発達障害評価実習 言語聴覚療法臨床実習Ⅰ 言語聴覚療法臨床実習Ⅱ 言語聴覚療法臨床実習Ⅲ 言語聴覚療法地域支援実習 応用言語聴覚学演習 言語聴覚療法総合演習Ⅲ
実(研)	助教	柏 智之 (40) <平成31年4月> 修士(学術) ※	地域課題研究Ⅱ
兼任	講師	中野 良哉 (46) <平成31年4月> 修士(人間環境学・学校教育学)	心理学 人間発達学 発達心理学 心理測定法実習
兼任	講師	宮地 由美子 (66) <平成31年4月> 社会学士	心理学
兼任	講師	松原 和康 (72) <平成31年4月> 法学士	教育学
兼任	講師	玉里 恵美子 (53) <平成31年4月> 博士(社会学)	社会学
兼任	講師	岡林 正幸 (66) <平成31年4月> 農学士	生物学 物理学
兼任	講師	神家 一成 (66) <平成31年4月> 体育学士	健康とスポーツ
兼任	講師	矢野 宏光 (51) <平成31年4月> 博士(心理学)	健康とスポーツ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
実(研)	准教授	重島 晃史 (42) <平成31年4月> 博士(学術)	地域課題研究Ⅰ 地域課題研究Ⅱ 基礎運動学
実(研)	准教授	辻 美和 (43) <平成31年4月> 博士(学術)	地域課題研究Ⅱ
実(研)	講師	清岡 学 (58) <平成31年4月> 修士(心身健康科学)	地域課題研究Ⅱ
実(研)	講師	吉村 知佐子 (41) <平成31年4月> 修士(医科学)	地域課題研究Ⅱ 言語聴覚療法セミナーⅠ 言語聴覚療法セミナーⅡ 言語発達障害検査実習 言語発達障害評価実習 言語聴覚療法臨床実習Ⅰ 言語聴覚療法臨床実習Ⅱ 言語聴覚療法臨床実習Ⅲ 言語聴覚療法地域支援実習 応用言語聴覚学演習 言語聴覚療法総合演習Ⅲ
実(研)	助教	柏 智之 (40) <平成31年4月> 修士(学術) ※	地域課題研究Ⅱ
兼任	講師	中野 良哉 (46) <平成31年4月> 修士(人間環境学・学校教育学)	心理学 発達心理学 心理測定法実習
兼任	講師	宮地 由美子 (66) <平成31年4月> 社会学士	心理学
兼任	講師	谷岡 禮志 (62) <平成31年4月> 文学士	教育学
兼任	講師	玉里 恵美子 (53) <平成31年4月> 博士(社会学)	社会学
兼任	講師	岡林 正幸 (67) <平成31年4月> 農学士	生物学 物理学
兼任	講師	神家 一成 (66) <平成31年4月> 体育学士	健康とスポーツ
兼任	講師	矢野 宏光 (51) <平成31年4月> 博士(心理学)	健康とスポーツ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
実(研)	准教授	重島 晃史 (43) <平成31年4月> 博士(学術)	地域課題研究Ⅰ 地域課題研究Ⅱ 基礎運動学
実(研)	准教授	辻 美和 (44) <平成31年4月> 博士(学術)	地域課題研究Ⅱ
実(研)	講師	清岡 学 (59) <平成31年4月> 修士(心身健康科学)	地域課題研究Ⅱ
実(研)	講師	吉村 知佐子 (42) <平成31年4月> 修士(医科学)	地域課題研究Ⅱ 言語聴覚療法セミナーⅠ 言語聴覚療法セミナーⅡ 言語発達障害検査実習 言語発達障害評価実習 言語聴覚療法臨床実習Ⅰ 言語聴覚療法臨床実習Ⅱ 言語聴覚療法臨床実習Ⅲ 言語聴覚療法地域支援実習 応用言語聴覚学演習 言語聴覚療法総合演習Ⅲ
実(研)	助教	柏 智之 (41) <平成31年4月> 修士(学術) ※	地域課題研究Ⅱ
兼任	講師	中野 良哉 (47) <平成31年4月> 修士(人間環境学・学校教育学)	心理学 発達心理学 心理測定法実習
兼任	講師	宮地 由美子 (67) <平成31年4月> 社会学士	心理学
兼任	講師	谷岡 禮志 (63) <平成31年4月> 文学士	教育学
兼任	講師	玉里 恵美子 (54) <平成31年4月> 博士(社会学)	社会学
兼任	講師	岡林 正幸 (68) <平成31年4月> 農学士	生物学 物理学
兼任	講師	神家 一成 (67) <平成31年4月> 体育学士	健康とスポーツ
兼任	講師	矢野 宏光 (52) <平成31年4月> 博士(心理学)	健康とスポーツ

高知リハビリテーション専門職大学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	シヨーン・バーゴイン Sean Burgoine (51) <平成31年4月> 修士(言語学)	英会話
兼任	講師	前田 正也 (61) <平成31年4月> 法学士	中国語
兼任	講師	田口 尚弘 (66) <平成31年4月> 理学博士	解剖学Ⅰ(総論・神経系) 解剖学Ⅱ(内臓・脈管系) 解剖学Ⅲ(骨格系) 解剖学Ⅳ(筋系)
兼任	講師	大迫 洋治 (46) <平成31年4月> 博士(獣医学)	生理学Ⅰ(動物性機能)
兼任	講師	梶 秀人 (68) <平成31年4月> 保健学博士、医学博士 農学博士	生理学Ⅰ(動物性機能) 生理学Ⅱ(植物性機能)
兼任	講師	奥谷 文乃 (59) <平成31年4月> 博士(医学)	生理学Ⅰ(動物性機能) 耳鼻咽喉科学 音声・言語系医学※
兼任	講師	矢吹 了一 (70) <平成31年4月> 社会学士	社会福祉概論
兼任	講師	江淵 聡 (47) <平成31年4月> 学士(社会学)	地域福祉活動論
兼任	講師	村岡 正浩 (42) <平成31年4月> 専修学校卒	マンガ概論
兼任	講師	関 和也 (40) <平成31年4月> 専修学校卒	マンガ基礎実習
兼任	講師	三吉 史高 (66) <平成31年9月> 工学士	数学
兼任	講師	藤原 憲一郎 (69) <平成31年9月> 博士(工学)	統計学
兼任	講師	甲藤 彰男 (69) <平成31年9月> 体育学士	健康とスポーツ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	シヨーン・バーゴイン Sean Burgoine (51) <平成31年4月> 修士(言語学)	英会話
兼任	講師	前田 正也 (61) <平成31年4月> 法学士	中国語
兼任	講師	田口 尚弘 (66) <平成31年4月> 理学博士	解剖学Ⅰ(総論・神経系) 解剖学Ⅱ(内臓・脈管系) 解剖学Ⅲ(骨格系) 解剖学Ⅳ(筋系)
兼任	講師	大迫 洋治 (46) <平成31年4月> 博士(獣医学)	生理学Ⅰ(動物性機能)
兼任	講師	梶 秀人 (68) <平成31年4月> 保健学博士、医学博士 農学博士	生理学Ⅰ(動物性機能) 生理学Ⅱ(植物性機能)
兼任	講師	奥谷 文乃 (59) <平成31年4月> 博士(医学)	生理学Ⅰ(動物性機能) 耳鼻咽喉科学 音声・言語系医学※
兼任	講師	矢吹 了一 (71) <平成31年4月> 社会学士	社会福祉概論
兼任	講師	江淵 聡 (47) <平成31年4月> 学士(社会学)	地域福祉活動論
兼任	講師	村岡 正浩 (43) <平成31年4月> 専修学校卒	マンガ概論
兼任	講師	関 和也 (40) <平成31年4月> 専修学校卒	マンガ基礎実習
兼任	講師	三吉 史高 (66) <平成31年9月> 工学士	数学
兼任	講師	藤原 憲一郎 (69) <平成31年9月> 博士(工学)	統計学
兼任	講師	甲藤 彰男 (69) <平成31年9月> 体育学士	健康とスポーツ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	シヨーン・バーゴイン Sean Burgoine (52) <平成31年4月> 修士(言語学)	英会話
兼任	講師	前田 正也 (62) <平成31年4月> 法学士	中国語
兼任	講師	田口 尚弘 (67) <平成31年4月> 理学博士	解剖学Ⅰ(総論・神経系) 解剖学Ⅱ(内臓・脈管系) 解剖学Ⅲ(骨格系) 解剖学Ⅳ(筋系)
兼任	講師	大迫 洋治 (47) <平成31年4月> 博士(獣医学)	生理学Ⅰ(動物性機能)
兼任	講師	梶 秀人 (69) <平成31年4月> 保健学博士、医学博士 農学博士	生理学Ⅰ(動物性機能) 生理学Ⅱ(植物性機能)
兼任	講師	奥谷 文乃 (60) <平成31年4月> 博士(医学)	生理学Ⅰ(動物性機能) 耳鼻咽喉科学 音声・言語系医学※ 聴覚系医学※
兼任	講師	矢吹 了一 (72) <平成31年4月> 社会学士	社会福祉概論
兼任	講師	江淵 聡 (48) <平成31年4月> 学士(社会学)	地域福祉活動論
兼任	講師	村岡 正浩 (44) <平成31年4月> 専修学校卒	マンガ概論
兼任	講師	関 和也 (41) <平成31年4月> 専修学校卒	マンガ基礎実習
兼任	講師	三吉 史高 (67) <平成31年9月> 工学士	数学
兼任	講師	藤原 憲一郎 (70) <平成31年9月> 博士(工学)	統計学
兼任	講師	甲藤 彰男 (70) <平成31年9月> 体育学士	健康とスポーツ

高知リハビリテーション専門職大学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	大塚 智子 (46) <平成31年9月> 博士(獣医学)
		生理学Ⅱ(植物性機能)
兼任	講師	田中 健二郎 (37) <平成31年9月> 博士(医学)
		生理学Ⅱ(植物性機能)
兼任	講師	香妻 美子 (70) <平成31年9月> 医学博士
		医学概論 病理学
兼任	講師	池 聡 (31) <平成31年9月> 学士(人間科学)
		失語症学 高次脳機能障害学※ 失語・高次脳機能障害検査実習 発声発話・嚥下障害検査実習 言語聴覚療法総合演習Ⅱ
兼任	講師	松井 大洲 (72) <平成31年9月> 短期大学卒
		活字デザイン論
兼任	講師	鈴木 琴栄 (42) <平成32年4月> 修士(音楽療法)
		医学英語
兼任	講師	倉田 浩充 (61) <平成32年4月> 医学博士
		臨床神経学
兼任	講師	竹田 伸也 (46) <平成32年4月> 博士(医学)
		精神医学
兼任	講師	宮本 寛 (57) <平成32年4月> 医学士
		リハビリテーション医学
兼任	講師	吉岡 孝敏 (31) <平成32年4月> 修士(臨床心理)
		臨床心理学
兼任	講師	山本 双一 (70) <平成32年4月> 修士(心身健康学)
		リーダーシップ論
兼任	講師	小林 泰輔 (58) <平成32年4月> 博士(医学)
		聴覚系医学※
兼任	講師	伊藤 広明 (35) <平成32年4月> 学士(医学)
		聴覚系医学※
兼任	講師	奥村 訓代 (66) <平成32年4月> 文学修士
		言語学 音声学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	大塚 智子 (46) <平成31年9月> 博士(獣医学)
		生理学Ⅱ(植物性機能)
兼任	講師	田中 健二郎 (37) <平成31年9月> 博士(医学)
		生理学Ⅱ(植物性機能)
兼任	講師	香妻 美子 (70) <平成31年9月> 医学博士
		医学概論 病理学
兼任	講師	池 聡 (31) <平成31年9月> 学士(人間科学)
		失語症学 高次脳機能障害学※ 失語・高次脳機能障害検査実習 発声発話・嚥下障害検査実習 言語聴覚療法総合演習Ⅱ
兼任	講師	松井 大洲 (72) <平成31年9月> 短期大学卒
		活字デザイン論
兼任	講師	鈴木 琴栄 (42) <平成32年4月> 修士(音楽療法)
		医学英語
兼任	講師	倉田 浩充 (61) <平成32年4月> 医学博士
		臨床神経学
兼任	講師	竹田 伸也 (46) <平成32年4月> 博士(医学)
		精神医学
兼任	講師	宮本 寛 (57) <平成32年4月> 医学士
		リハビリテーション医学
兼任	講師	吉岡 孝敏 (31) <平成32年4月> 修士(臨床心理)
		臨床心理学
兼任	講師	山本 双一 (70) <平成32年4月> 修士(心身健康学)
		リーダーシップ論
兼任	講師	小林 泰輔 (58) <平成32年4月> 博士(医学)
		聴覚系医学※
兼任	講師	伊藤 広明 (35) <平成32年4月> 学士(医学)
		聴覚系医学※
兼任	講師	奥村 訓代 (66) <平成32年4月> 文学修士
		言語学 音声学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	大塚 智子 (47) <平成31年9月> 博士(獣医学)
		生理学Ⅱ(植物性機能)
兼任	講師	田中 健二郎 (38) <平成31年9月> 博士(医学)
		生理学Ⅱ(植物性機能)
兼任	講師	香妻 美子 (71) <平成31年9月> 医学博士
		医学概論 病理学
兼任	講師	池 聡 (32) <平成31年9月> 学士(人間科学)
		失語症学 高次脳機能障害学※ 失語・高次脳機能障害検査実習 発声発話・嚥下障害検査実習 言語聴覚療法総合演習Ⅱ
兼任	講師	松井 大洲 (73) <平成31年9月> 短期大学卒
		活字デザイン論
兼任	講師	鈴木 琴栄 (43) <平成32年4月> 修士(音楽療法)
		医学英語
兼任	講師	倉田 浩充 (62) <平成32年4月> 医学博士
		臨床神経学
兼任	講師	竹田 伸也 (47) <平成32年4月> 博士(医学)
		精神医学
兼任	講師	宮本 寛 (58) <平成32年4月> 医学士
		リハビリテーション医学
兼任	講師	吉岡 孝敏 (32) <平成32年4月> 修士(臨床心理)
		臨床心理学
兼任	講師	山本 双一 (71) <平成32年4月> 修士(心身健康学)
		リーダーシップ論
兼任	講師	小林 泰輔 (59) <平成32年4月> 博士(医学)
		聴覚系医学※
兼任	講師	伊藤 広明 (36) <平成32年4月> 学士(医学)
		聴覚系医学※
兼任	講師	奥村 訓代 (67) <平成32年4月> 文学修士
		言語学 音声学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	井上 真理子 (36) <平成32年4月> 専修学校卒	聴覚障害学 聴覚検査学 聴覚障害検査実習
兼任	講師	大倉 美知子 (58) <平成32年4月> 短期大学卒	視覚デザイン概論 カラーコミュニケーション概論 視覚伝達デザイン論
兼任	講師	石元 篤雄 (59) <平成32年9月> 医学士	内科学
兼任	講師	小野 歩 (63) <平成32年9月> 医学博士	内科学
兼任	講師	田中 肇 (56) <平成32年9月> 医学博士	内科学
兼任	講師	竹中 奈奈 (41) <平成32年9月> 学士(医学)	内科学
兼任	講師	田邊 裕久 (62) <平成32年9月> 医学士	臨床神経学
兼任	講師	武市 知己 (56) <平成32年9月> 医学博士	小児科学
兼任	講師	倉繁 迪 (76) <平成32年9月> 医学博士	小児科学
兼任	講師	小倉 英郎 (74) <平成32年9月> 医学博士	小児科学
兼任	講師	小谷 治子 (57) <平成32年9月> 医学士	小児科学
兼任	講師	兵頭 政光 (61) <平成32年9月> 医学博士	音声・言語系医学※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	井上 真理子 (36) <平成32年4月> 専修学校卒	聴覚障害学 聴覚検査学 聴覚障害検査実習
兼任	講師	大倉 美知子 (58) <平成32年4月> 短期大学卒	視覚デザイン概論 カラーコミュニケーション概論 視覚伝達デザイン論
兼任	講師	石元 篤雄 (59) <平成32年9月> 医学士	内科学
兼任	講師	小野 歩 (63) <平成32年9月> 医学博士	内科学
兼任	講師	田中 肇 (56) <平成32年9月> 医学博士	内科学
兼任	講師	竹中 奈奈 (41) <平成32年9月> 学士(医学)	内科学
兼任	講師	田邊 裕久 (62) <平成32年9月> 医学士	臨床神経学
兼任	講師	武市 知己 (56) <平成32年9月> 医学博士	小児科学
兼任	講師	倉繁 迪 (76) <平成32年9月> 医学博士	小児科学
兼任	講師	小倉 英郎 (74) <平成32年9月> 医学博士	小児科学
兼任	講師	小谷 治子 (57) <平成32年9月> 医学士	小児科学
兼任	講師	兵頭 政光 (61) <平成32年9月> 医学博士	音声・言語系医学※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	公文 素子 (67) <平成32年4月> 文学修士	音声学
兼任	講師	井上 真理子 (37) <平成32年4月> 専修学校卒	聴覚障害学 聴覚検査学 聴覚障害検査実習
兼任	講師	大倉 美知子 (59) <平成32年4月> 短期大学卒	視覚デザイン概論 カラーコミュニケーション概論 視覚伝達デザイン論
兼任	講師	石元 篤雄 (60) <平成32年9月> 医学士	内科学
兼任	講師	小野 歩 (64) <平成32年9月> 医学博士	内科学
兼任	講師	田中 肇 (57) <平成32年9月> 医学博士	内科学
兼任	講師	竹中 奈奈 (42) <平成32年9月> 学士(医学)	内科学
兼任	講師	小笠原 望 (68) <令和2年4月> 医学士	臨床神経学
兼任	講師	金子 恵子 (41) <令和2年4月> 医学士	臨床神経学
兼任	講師	武市 知己 (57) <平成32年9月> 医学博士	小児科学
兼任	講師	倉繁 迪 (77) <平成32年9月> 医学博士	小児科学
兼任	講師	小倉 英郎 (75) <平成32年9月> 医学博士	小児科学
兼任	講師	小谷 治子 (58) <平成32年9月> 医学士	小児科学
兼任	講師	兵頭 政光 (62) <平成32年9月> 医学博士	音声・言語系医学※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	長尾 明日香 (34) <平成32年9月> 学士(医学)	音声・言語系医学※
兼任	講師	世木 秀明 (64) <平成32年9月> 工学修士	音響学(聴覚心理学を含む)
兼任	講師	竹下 誠一 (65) <平成32年9月> 法学士	情報メディア学入門
兼任	講師	竹崎 久美子 (60) <平成33年4月> 博士(看護学)	生命倫理※
兼任	講師	渡邊 聡子 (54) <平成33年4月> 博士(看護学)	生命倫理※
兼任	講師	秋山 謙三 (72) <平成33年4月> 歯学士	形成外科学 臨床歯科医学
兼任	講師	宮川 和之 (56) <平成33年4月> 学士(保健衛生学)	画像診断学
兼任	講師	渡邊 慶子 (65) <平成33年4月> 博士(生活科学)	臨床栄養学
兼任	講師	田所 茂彦 (68) <平成33年4月> 薬学士	臨床薬理学
兼任	講師	柚村 誠 (65) <平成33年4月> 体育学士	救急管理実習
兼任	講師	津江 美和 (56) <平成33年4月> 修士(教育学)	学習・認知心理学
兼任	講師	大崎 聡 (61) <平成33年4月> 経済学士	言語発達障害学
兼任	講師	濃崎 佳瑠子 (49) <平成33年4月> 修士(教育学)	学習障害・広汎性発達障害学※
兼任	講師	藤原 百合 (71) <平成33年4月> 博士(学術)	器質性構音障害学実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	長尾 明日香 (34) <平成32年9月> 学士(医学)	音声・言語系医学※
兼任	講師	世木 秀明 (64) <平成32年9月> 工学修士	音響学(聴覚心理学を含む)
兼任	講師	竹下 誠一 (65) <平成32年9月> 法学士	情報メディア学入門
兼任	講師	竹崎 久美子 (60) <平成33年4月> 博士(看護学)	生命倫理※
兼任	講師	渡邊 聡子 (54) <平成33年4月> 博士(看護学)	生命倫理※
兼任	講師	秋山 謙三 (72) <平成33年4月> 歯学士	形成外科学 臨床歯科医学
兼任	講師	宮川 和之 (56) <平成33年4月> 学士(保健衛生学)	画像診断学
兼任	講師	渡邊 慶子 (65) <平成33年4月> 博士(生活科学)	臨床栄養学
兼任	講師	田所 茂彦 (68) <平成33年4月> 薬学士	臨床薬理学
兼任	講師	柚村 誠 (65) <平成33年4月> 体育学士	救急管理実習
兼任	講師	津江 美和 (56) <平成33年4月> 修士(教育学)	学習・認知心理学
兼任	講師	大崎 聡 (61) <平成33年4月> 経済学士	言語発達障害学
兼任	講師	濃崎 佳瑠子 (49) <平成33年4月> 修士(教育学)	学習障害・広汎性発達障害学※
兼任	講師	藤原 百合 (71) <平成33年4月> 博士(学術)	器質性構音障害学実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	長尾 明日香 (35) <平成32年9月> 学士(医学)	音声・言語系医学※
兼任	講師	世木 秀明 (65) <平成32年9月> 工学修士	音響学(聴覚心理学を含む)
兼任	講師	竹下 誠一 (66) <平成32年9月> 法学士	情報メディア学入門
兼任	講師	竹崎 久美子 (61) <平成33年4月> 博士(看護学)	生命倫理※
兼任	講師	渡邊 聡子 (55) <平成33年4月> 博士(看護学)	生命倫理※
兼任	講師	秋山 謙三 (73) <平成33年4月> 歯学士	形成外科学 臨床歯科医学
兼任	講師	森田 尚亨 (63) <令和3年4月> 修士(理学)	画像診断学
兼任	講師	渡邊 慶子 (66) <平成33年4月> 博士(生活科学)	臨床栄養学
兼任	講師	田所 茂彦 (69) <平成33年4月> 薬学士	臨床薬理学
兼任	講師	柚村 誠 (66) <平成33年4月> 体育学士	救急管理実習
兼任	講師	津江 美和 (57) <平成33年4月> 修士(教育学)	学習・認知心理学
兼任	講師	大崎 聡 (62) <平成33年4月> 経済学士	言語発達障害学
兼任	講師	濃崎 佳瑠子 (50) <平成33年4月> 修士(教育学)	学習障害・広汎性発達障害学※
兼任	講師	藤原 百合 (72) <平成33年4月> 博士(学術)	器質性構音障害学実習

高知リハビリテーション専門職大学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	塩見 将志 (49) <平成33年4月> 博士(医学)	吃音学
兼任	講師	土居 奈央 (33) <平成33年4月> 学士(人間科学)	嚥下障害学実習※ 発声発語・嚥下障害評価実習※ 言語聴覚療法技術実習IV (発声発語・嚥下障害)※
兼任	講師	益田 慎 (57) <平成33年4月> 博士(医学)	嚥下障害学実習※
兼任	講師	秋朝 幸二 (56) <平成33年4月> 短期大学卒	補聴器・人工内耳学
兼任	講師	森本 忠彦 (81) <平成33年4月> 教育学士	広告論
兼任	講師	柳本 伸二 (63) <平成33年4月> 商学士	企業広報活動論
兼任	講師	吉岡 一洋 (46) <平成33年4月> 修士(教育学)	広告デザイン論
兼任	講師	谷本 愛裕美 (38) <平成33年9月> 学士(人間科学)	重複障害学※
兼任	講師	北川 純平 (41) <平成33年9月> 学士(社会福祉学)	運動障害性構音障害学実習
兼任	講師	井上 浩明 (45) <平成33年9月> 専修学校卒	言語聴覚療法技術実習Ⅱ (高次脳機能障害)※
兼任	講師	川上 理子 (54) <平成33年9月> 博士(看護学)	地域包括ケア論※
兼任	講師	森下 幸子 (60) <平成33年9月> 修士(看護学)	地域包括ケア論※
兼任	講師	鶴見 隆正 (73) <平成34年4月> 博士(医学)	チーム連携論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	塩見 将志 (49) <平成33年4月> 博士(医学)	吃音学
兼任	講師	土居 奈央 (33) <平成33年4月> 学士(人間科学)	嚥下障害学実習※ 発声発語・嚥下障害評価実習※ 言語聴覚療法技術実習IV (発声発語・嚥下障害)※
兼任	講師	益田 慎 (57) <平成33年4月> 博士(医学)	嚥下障害学実習※
兼任	講師	秋朝 幸二 (56) <平成33年4月> 短期大学卒	補聴器・人工内耳学
兼任	講師	森本 忠彦 (81) <平成33年4月> 教育学士	広告論
兼任	講師	柳本 伸二 (63) <平成33年4月> 商学士	企業広報活動論
兼任	講師	吉岡 一洋 (46) <平成33年4月> 修士(教育学)	広告デザイン論
兼任	講師	谷本 愛裕美 (38) <平成33年9月> 学士(人間科学)	重複障害学※
兼任	講師	北川 純平 (41) <平成33年9月> 学士(社会福祉学)	運動障害性構音障害学実習
兼任	講師	井上 浩明 (45) <平成33年9月> 専修学校卒	言語聴覚療法技術実習Ⅱ (高次脳機能障害)※
兼任	講師	川上 理子 (54) <平成33年9月> 博士(看護学)	地域包括ケア論※
兼任	講師	森下 幸子 (60) <平成33年9月> 修士(看護学)	地域包括ケア論※
兼任	講師	鶴見 隆正 (73) <平成34年4月> 博士(医学)	チーム連携論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	塩見 将志 (50) <平成33年4月> 博士(医学)	吃音学
兼任	講師	土居 奈央 (34) <平成33年4月> 学士(人間科学)	嚥下障害学実習※ 発声発語・嚥下障害評価実習※ 言語聴覚療法技術実習IV (発声発語・嚥下障害)※
兼任	講師	益田 慎 (58) <平成33年4月> 博士(医学)	嚥下障害学実習※
兼任	講師	秋朝 幸二 (57) <平成33年4月> 短期大学卒	補聴器・人工内耳学
兼任	講師	森本 忠彦 (82) <平成33年4月> 教育学士	広告論
兼任	講師	柳本 伸二 (64) <平成33年4月> 商学士	企業広報活動論
兼任	講師	吉岡 一洋 (47) <平成33年4月> 修士(教育学)	広告デザイン論
兼任	講師	谷本 愛裕美 (39) <平成33年9月> 学士(人間科学)	重複障害学※
兼任	講師	北川 純平 (42) <平成33年9月> 学士(社会福祉学)	運動障害性構音障害学実習
兼任	講師	井上 浩明 (46) <平成33年9月> 専修学校卒	言語聴覚療法技術実習Ⅱ (高次脳機能障害)※
兼任	講師	川上 理子 (55) <平成33年9月> 博士(看護学)	地域包括ケア論※
兼任	講師	森下 幸子 (61) <平成33年9月> 修士(看護学)	地域包括ケア論※
兼任	講師	鶴見 隆正 (74) <平成34年4月> 博士(医学)	チーム連携論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	西田 香利 (61) <平成34年4月> 短期大学卒	兼任	講師	西田 香利 (61) <平成34年4月> 短期大学卒	兼任	講師	西田 香利 (62) <平成34年4月> 短期大学卒
		言語聴覚療法技術実習Ⅲ(失語)※			言語聴覚療法技術実習Ⅲ(失語)※			言語聴覚療法技術実習Ⅲ(失語)※
兼任	講師	先川 信一郎 (72) <平成34年9月> 学士(工学)	兼任	講師	先川 信一郎 (72) <平成34年9月> 学士(工学)	兼任	講師	先川 信一郎 (73) <平成34年9月> 学士(工学)
		国際関係論			国際関係論			国際関係論

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報とし
 ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。-----
 ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
 その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
 ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、実(実))、兼任、兼任の順に記入してください。
 ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成29年度】

--

【平成30年度】

--

【令和元年度】

・兼任講師が都合により辞退したため、「教育学」の兼任講師を新たに配置した。

【令和2年度】

・大倉教授が病氣治療中にて、主治医より勤務負担の軽減を指示されており、負担軽減が必要な状況の為「健康科学」・「理学療法概論」・「運動療法学」・「運動療法学実習」の4科目について担当科目から削除した。 ・「言語学」「音声学」を担当する兼任講師が都合により「音声学」を辞退したため、新たに兼任講師を配置した。 ・兼任講師が都合により辞退したため及び開講回数3回の兼任講師の負担の軽減とより質の高い教育効果を得るため「臨床神経学」の兼任講師2名を新たに配置した。 ・聴覚系医学の基礎的な知識である聴器の構造と機能（生理）について、専門の医師による講義行うことが教育効果が高いため、兼任講師を1名新たに配置した。 ・兼任講師が都合により辞退したため、「画像診断学」の兼任講師を新たに配置した。
--

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要実務家教員数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要な研究業績を有する実務家教員数
26 名	13 名	11 名	6 名

(注) ・ 専門職大学設置基準、専門職短期大学設置基準により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【専門職大学等】

設置時の計画						現在(報告時)の状況											
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')						
13	9	8	6	36	0	12	8	8	4	32	0						
(10)	(8)	(8)	(4)	(30)	0												
専任教員数(専)			専任教員数(実専)			専任教員数(実(研))			専任教員数(専)			専任教員数(実専)			専任教員数(実(研))		
24	5	7				20	3	7									
(20)	(3)	(7)				(20)	(3)	(7)									
現在(報告時)の完成年度時の状況						現在(報告時)の完成年度時の計画											
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')						
13	9	8	6	36	0	13	9	8	6	36	0						
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]						
専任教員数(専)			専任教員数(実専)			専任教員数(実(研))			専任教員数(専)			専任教員数(実専)			専任教員数(実(研))		
24	5	7				24	5	7									
[0]	[0]	[0]				[0]	[0]	[0]				[0]	[0]				

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在(報告時)の状況」には、報告年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の状況」には、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)
 ・ 「実専」は実務家教員、「実(研)」は研究能力を併せ有する実務家教員を計上してください。
 なお、みなし専任教員(実み)がいる場合は、必要に応じて各項目の教員数に計上してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告時(上記(B))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(C))の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	9 名	12 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{36}{36} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{9}{32} = \boxed{28.12} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし							
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
	選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
	自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）」の理由に就任辞退の理由等及び() 書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし							
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
	選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
	自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び() 書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
	選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
	自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{36} = 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 一⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
		該当なし						
合計			後任補充状況の集計					
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
	選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
	自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区分	附帯事項等	履行状況	今後の実施計画
<p>認可時 (30年10月)</p>	<p>・設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、学術の中心として広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究するという大学の目的、さらに専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を展開するという専門職大学の目的に照らし、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。</p> <p>遵守事項</p>	<p><全般的な設置計画の検討> ・設置計画を確実に履行できるように、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めている。</p> <p><教職員の能力向上> ・四国地区の35の国公立大学・短期大学・専門職大学（四国地区に一部の学部等を置く大学を含む）及び高等専門学校によって構成される「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）」に加盟した。（令和元年度） （別添資料Ⅰ-1、2参照）</p> <p><委員会・諸規程の整備> ・専門職大学の目的に照らし、充実した教育研究活動ならびにその水準を一層向上させるため、各種委員会の設置ならびに諸規程の整備を行った。（令和元年度） （別添資料Ⅰ-3参照）</p> <p><専任教員の増員> ・学科長を、他大学で学科長経験のある本学専任教員である教授に改めたため、当該教員の就任予定年月を平成32年4月1日から1年前倒し平成31年4月1日としたため、開学時の専任教員数を29名から30名に変更した。（令和元年度） （別添資料Ⅰ-4参照）</p> <p>履行済</p>	<p>・「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）」で行う研修に、本学の教職員が参加する。（令和元年度）</p> <p>・FD委員会とSD委員会により組織的に授業の内容及び方法の改善を図るための研修及び研究、学習支援、教員の研究活動向上等を計画的に実施する。（令和元年度）</p> <p>・教育研究等の状況について自己点検・評価に取り組み、結果を公表し、大学として社会への説明責任を果たすとともに、社会の評価を受け、管理運営方法、教育内容や教育方法等を、継続的に改善していく。教育課程連携協議会の意見にもとづき、学内で検討された授業科目の編成や授業内容及び方法などの改善については、教育課程に反映させて実施するよう努める。（令和元年度）</p>

		<p>遵守事項</p>	<p><事前の学修の整備> ・各専攻の臨床実習Ⅰにおいて、「理学療法セミナーⅡ (PBL)」、「臨床作業療法技法Ⅰ (PBL)」、「言語聴覚障害学総論Ⅰ」の復習をしておくことを追加した。 (別添資料Ⅰ-5、6、7参照) 各専攻の臨床実習Ⅱにおいて、「臨床理学療法技法演習 (PBL)」、「臨床作業療法技法Ⅱ (PBL)」、「言語聴覚療法技術演習Ⅰ (言語発達障害)」、「言語聴覚療法技術演習Ⅱ (高次脳機能障害)」の科目の復習をしておくことを追加した。 (別添資料Ⅰ-8、9、10参照) 臨床場面を想定した技能実習を行う科目の復習を、事前の予習内容とした。 (令和元年度)</p> <p><大学と専門学校の教室使用計画> ・学生の職業に対する興味・関心を高めるため、大学と専門学校の実習室の使用計画を変更し、入学時より全実習室を使用できるように変更した。大学と専門学校との実習室使用が重複しないよう時間割を計画調整した。(令和元年度) (別添資料Ⅰ-11、12参照)</p>	<p>履行済</p>	<p>「該当なし」</p>
<p>認可時 (30年10月)</p>	<p>・作業療法学専攻における「福祉」を冠する展開科目については、科目の概要及び科目区分を踏まえた科目名称に改めること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>・下記の通り科目名称を改めた。 「福祉工学基礎論」は「ロボット技術活用論」に変更。「地域福祉論」は「地域生活とサービス」とした。「精神障害福祉論」は「精神障害者の援助とネットワーク」とした。「障害者福祉論」は「障害者の社会環境と制度」とした。 (令和元年度)</p>	<p>履行済</p>	<p>「該当なし」</p>

高知リハビリテーション専門職大学

<p>認可時 (30年10月)</p>	<p>・「マンガ基礎実習」については成績評価方法が課題提出のみとなっているため、授業の到達目標を適切に確認する評価方法を設定すること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>・到達目標を確認するものとして、下記の評価方法を設定した。 ①授業において作成する2作品から、実技面として、構成の理解度15%、描き方の理解度15%、完成度20%の計50%を評価する。 ②15回目に実施する「ストーリーマンガを用いたコミュニケーション」を中心に、プレゼンテーションとして50%を評価する。 (令和元年度) (別添資料Ⅱ参照)</p>	<p>履行済</p>	<p>「該当なし」</p>
<p>認可時 (30年10月)</p>	<p>・臨床実習の成績評価について、筆記試験に加え、口頭試験も踏まえた実技試験を実施すること。また、実習施設の指導者の評価を参考とするのは差支えないが、単位認定する際の成績評価は大学として行う必要があるため、シラバスの成績評価方法は適切に改めること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>・「臨床実習Ⅱ」における成績評価項目である「臨床実習Ⅱ判定試験」の内容を、「筆記ならびに実技・口頭試験」に改めた。 (令和元年度) (別添資料Ⅲ-1、2、3参照) ・臨床実習の成績評価については、臨床実習指導者による成績評価を参考程度とし、大学における単位認定は、臨床実習委員会において成績判定に必要な項目について検討し、総合的に判断することに改めた。 (令和元年度) (別添資料Ⅲ-4、5、6、7、8、9参照)</p>	<p>履行済</p>	<p>「該当なし」</p>
<p>認可時 (30年10月)</p>	<p>・各専攻の必修科目である臨床実習Ⅲを履修するための要件としている「客観的臨床能力試験（OSCE）」の位置付けや内容については、履修要項や学生便覧等で明確に記載して履修指導を行うこと。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>・臨床実習委員会において、「臨床実習の手引き」ならびに「学生用マニュアル」を検討し作成するとともに、「客観的臨床能力試験（OSCE）」の実施計画を作成、学生へ周知するための資料も作成する。これらの作成した資料を学生に配布し、履修指導を行うこととする。 (令和元年度) (別添資料Ⅳ-1、2、3) ・「臨床実習の手引き」を作成した。(令和元年度) (別添資料Ⅳ-1、2、3) ・「臨床実習の手引き」を用いて、2年次前期に「客観的臨床能力試験（OSCE）」について説明する。(令和2年度)</p>	<p>履行中</p>	<p>・「臨床実習の手引き」を作成する。(令和元年度) ・「臨床実習の手引き」を用いて、2年次前期に「客観的臨床能力試験（OSCE）」について説明する。(令和2年度) ・「客観的臨床能力試験（OSCE）」に関する「学生用マニュアル」を作成する。(令和2年度) ・このマニュアルを用いて、3年次4月に、試験までの期間の自己学習と試験準備、試験内容について説明する。(令和3年度)</p>

高知リハビリテーション専門職大学

<p>認可時 (30年10月)</p>	<p>・展開科目について、専任教員の配置の充実を検討しつつ、人材育成の目的とする職業分野において、創造的な役割を果たすために必要な能力を育成するという展開科目の目的を踏まえ、更なる充実に努めること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>・学生が展開科目と専門領域の科目との関連性を理解できるように、展開科目に配置する専任教員の他に、展開科目群に関してマネジメントを行う専任教員を配置した。展開科目に配置する専任教員の教授2名と、各専攻長および学科として統括するために学科長を加えた4名により、開学時より教育課程における展開科目の運用に関するマネジメントを行うものとした。 (令和元年度)</p>	<p>履行済</p>	<p>「該当なし」</p>
<p>認可時 (30年10月)</p>	<p>・教員の補充を必要とされた1授業科目については、科目開講時までに専任教員を充足すること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>・補充する専任教員として、准教授1名を充てることとした。 (令和元年度)</p> <p>・専任教員の補充が必要とされた授業科目は、「運動器障害理学療法実習」(必修、1単位、実習、3年・前期)である。補充する専任教員には、本年9月に専任教員採用等設置計画変更書(AC教員審査)の判定を受け、支障を来さないよう就任してもらう予定である。 (令和2年度)</p>	<p>履行中</p>	<p>・科目開講時までに、専任教員採用等設置計画変更書(AC教員審査)の判定を受ける。 (令和2年度)</p>
<p>認可時 (30年10月)</p>	<p>・学科長や一部の専攻長に講師を充てているが、学科長等は他の教授等を指導して教育研究を運営するマネジメントの要となるため、教育研究に十分な経験を積んだ適切な職位の専任教員に改めること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>・学科長は、学科長選考規程第3条に基づき、本学専任教員である教授に改めた。 (令和元年度) (別添資料V-1参照)</p> <p>・作業療法学専攻長は、専攻長選考規程第3条に基づき、本学専任教員である准教授に改めた。 (令和元年度) (別添資料V-2参照)</p>	<p>履行済</p>	<p>「該当なし」</p>
<p>認可時 (30年10月)</p>	<p>・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>・完成年度時に、定年を延長して採用する専任教員は12名である。定年規程の一部を改正し、73歳を超えて延長はできないものとする予定であり、完成年度末に退職する専任教員は教授8名で、継続延長は教授2名、准教授1名、助教1名である。専任教員の後任については、専任教員数36名体制を維持することを基本方針とし、学科全体と各専攻の教員構成のバランス、科目適合性や年齢構成も考慮して適切に補充する。</p> <p>・学内教員からの内部昇格、公募による中堅及び若手教員を採用する等バランスのとれた年齢構成の教員研究組織となるように努める。</p>	<p>履行済</p>	<p>・完成年度後の専任教員数は、内部昇格や公募により、教授13名、准教授7名、講師14名、助教2名の合計36名とする計画である。</p> <p>・実務家教員については、基準実務家教員数(11名以上)を遵守する人員を配置する計画である。実務家教員のキャリアを維持し、常に最新の実務感覚が更新できるように、提携先の病院や施設等において定期的に実務に従事するよう努める。</p> <p>・学位未取得の教員(助教)に対して、大学院進学を支援する。 (令和元年度)</p>

高知リハビリテーション専門職大学

		<p>・下位の職位の若手教員に対して、個人研究費並びに共同研究費を支給、研究時間を確保、研究成果を学術誌や紀要に発表するよう奨励する。</p> <p>・学位未取得の教員に対しては、大学院進学を積極的に支援する。 (令和元年度)</p> <p>・開学時(平成31年)のリハビリテーション学科の教員組織は、30名の専任教員で、教授10名(平均年齢68.1歳)、准教授8名(平均年齢50.4歳)、講師8名(平均年齢48.5歳)、助教4名(平均年齢47.5歳)で構成する。完成年度(令和4年)には36名の専任教員となる。教員組織は、教授13名(平均年齢70.1歳)、准教授9名(平均年齢53.2歳)、講師8名(平均年齢51.5歳)、助教6名(平均年齢48.0歳)である。年齢構成では、40歳代が12名(33.4%)、50歳代が7名(19.4%)、60歳～64歳までが5名(13.9%)、65歳～69歳が4名(11.1%)、70歳以上が8名(22.2%)である。(別添資料VI-1)実務家教員は12名含まれ、基準実務家教員数11名(4割以上)は超えている。実務家教員12名のうち7名(2分の1以上)は、研究能力を併せ有する実(研)教員である。(別添資料VI-2)</p> <p>・高知リハビリテーション専門職大学の定年は、学校法人高知学園の「定年に関する規程」(別添資料VI-3)により65歳(第2条第1項)であるが、高知学園以外を定年または近接した年齢で退職し採用された教員は、特に必要があると認めた場合には、68歳(第2条第2項)としている。また、これらの専任教員については必要があると認める場合には、さらに定年を5年間延長することができるものとしている(第2条第3項)。なお、大学設置時に任用される専任教員については、大学の完成年度の末日(令和5年3月31日)まで定年延長することができる(第2条第4項)。リハビリテーション学科の専任教員36名のうち、開学年度より68歳以上の専任教員は7名(学長含めすべて教授)、完成年度までに68歳を超える教員は1名(教授1名)、65歳を超える教員は3名(教授1名、准教授1名、助教1名)となっているが、本規程第2条第2項及び第4項により完成年度まで雇用を継続することができるものとしている。(別添資料VI-4)</p>	<p>遵守事項</p> <p>履行済</p> <p>「該当なし」</p>
--	--	--	--------------------------------------

高知リハビリテーション専門職大学

		<p>・上記に鑑み、本学の将来構想に基づく高年齢教員退職後の教員補充計画について、(別添資料VI-5)の通り集約を行った。具体的は以下の通りである。</p> <p>・退職年齢を延長しているリハビリテーション学科の専任教員12名のうち、完成年度末(令和5年3月31日)に退職する専任教員は、教授8名(理学療法学専攻3名、作業療法学専攻3名、言語聴覚学専攻2名)で、継続延長は教授2名(理学療法学専攻1名、言語聴覚学専攻1名)、准教授1名(理学療法学専攻)、助教1名(作業療法学専攻)の4名である。退職する高年齢教員の後任については、専任教員数36名体制を維持することを基本方針とし、学科全体と各専攻の教員構成のバランス、科目適合性や年齢構成も考慮して適切に補充する。定年規程の趣旨を踏まえつつ、学内教員からの内部昇格、非常勤講師の活用、公募による教員採用等バランスのとれた年齢構成の教員研究組織となるよう適切な運用に努める。専任教員の昇格や採用にあたっては、本学の「教員資格基準」及び「教員選考基準」等に従い、上級職への昇格及び登用、採用を行う予定である。</p> <p>・実務家教員については、基準実務家教員数(11名以上)を遵守する人員を配置する。実務家教員のキャリアを維持し、常に最新の実務感覚が更新できるよう提携先の病院や施設等において定期的に実務に従事するよう努める。</p> <p>・研究能力を有する新たな若手教員の育成や発掘、研究業績豊富な教授による准教授、講師、助教への教育研究指導や支援をすることで、教育の質を担保した教員組織編成となるよう努める。専門分野に留まらず他分野の教授等とも連携した教育研究活動を行い、後継者の育成を行っていく。</p>	<p>遵守事項</p> <p>履行済</p>	<p>「該当なし」</p>
--	--	---	------------------------	---------------

		<p>遵守事項</p>	<p>・研究能力向上のために、科研費申請を奨励し、個人での申請に加え、若手教員を主体とする共同研究等積極的な研究活動啓発にも取り組む。研究体制については、本学では個人研究費並びに共同研究費を支給する。倫理委員会における倫理審査体制を整え、成果は学術誌や紀要等に発表するよう奨励する。</p> <p>また、教員の研究能力を高め、研究業績を蓄積するために学内研究会を開催し、研究水準の維持・向上にも努める。教員が学外の競争的資金を獲得できるような研究計画作成、申請書作成、倫理審査等に関する相談体制の整備、学位未取得の教員に対しては学修・研究時間の確保に努め、大学院進学を積極的に支援する等教育研究環境の充実も図る。</p> <p>・授業改善を目的とした本学のファカルティ・ディベロップメント（FD）活動において、中堅・若手の教員育成を図ることで完成年度以降の教育水準を維持することに努める。さらに、経験のある高年齢教員が授業を担当する際に、関連分野の若手教員が授業補助に当たり、将来、当該授業科目の担当を継承できるようにFDの機会ともしていく。 （令和2年度）</p>	<p>履行済</p>	<p>「該当なし」</p>
<p>認可時 (30年10月)</p>	<p>・本学は各専任教員の研究室が個別に整備される計画であるが、今後も教員が研究するための実験研究室なども含めた研究環境の充実に努めることが望ましい。</p>	<p>改善事項</p>	<p>・教員の研究環境の充実に図るために、教員が研究するための実験研究室の整備に努める。研究上の利便性も考慮して、学内各専攻に分散して配置されている各種機械・器具を集中配置や、必要に応じて新たな機械・器具等を揃えていくことも検討する。 （令和元年度）</p>	<p>履行中</p>	<p>・教育水準の低下を招かないよう、実習室1室の使用用途を再検討し、教員用実験研究室として再整備することを計画している。 （令和元年度）</p> <p>・完成年度までに教員が研究するための実験研究室を整備する予定である。本学では、教育研究活動に際し、3つの専攻の専任教員が専門分野の枠を超えて組織横断的な協働体制で取り組むことを基本方針としている。</p> <p>3専攻に共通する研究領域は、「リハビリテーション科学分野」である。すなわち、当該実験研究室は、障害者の障害構造解析と機能評価、リハビリテーション手法の開発と成果評価の実証研究などを行うことを目的に動作解析に関連した設備・機器を主体として構成することを検討している。</p> <p>また、利用者の研究上の利便性も考慮して、各専攻に分散して配置されている各種機械・器具を集中配置する。また、必要に応じて新たな機械・器具等を揃えていくことも検討している。 （令和2年度）</p>

高知リハビリテーション専門職大学

<p>認可時 (30年10月)</p>	<p>・学生が教育研究を行なう上で外国の文献に触れる機会を担保するため、電子ジャーナルを充実することが望ましい。</p>	<p>改善事項</p>	<p>・インターネットで配信される外国文献が検索・閲覧できるデータベース「ProQuest Nursing & Allied Health Database+MEDLINE」を契約した。利用可能な電子ジャーナルは医学・看護分野で約1,400誌で、リハビリテーション関係は、理学療法学関連が30誌、作業療法学関連が29誌、言語聴覚学関連28誌、合計87誌収録されている。(令和元年度) (別添資料Ⅶ参照)</p>	<p>履行済</p>	<p>「該当なし」</p>
-------------------------	--	-------------	---	------------	---------------

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>年度当初よりFD委員会規程（別添資料Ⅷ-1）及びSD委員会規程（別添資料Ⅷ-2）に基づき各委員会を組織した。FD委員会は、リハビリテーション学科長を委員長とし、委員は理学療法学専攻教員2名、作業療法学専攻教員1名、言語聴覚学専攻教員1名、事務職員2名で構成されている。SD委員会は、事務局長を委員長とし、委員は、事務職員6名で構成されている。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>委員会は、必要に応じて委員長が委員を招集し開催している。令和元年度は、FD委員会2回、SD委員会2回、開催した。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. FD・SD活動に関する情報収集と提供 2. 教育の質的向上に向けた企画・立案及び支援 3. 職員の研修等の企画・実施及び支援 4. 職員の能力開発の推進に向けた企画・立案及び支援 5. 授業の改善 6. FD・SDの啓発活動 7. その他、FD・SD推進活動 <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「科学研究費の応募方法」に関する講習会 ・「シラバスの書き方」に関する講習会 ・研究発表会 ・研究倫理教育「APRIN eラーニングプログラム」 ・「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」FD研修会 ・「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」SD研修会 ・「理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設職員等講習会」 ・学生による授業評価アンケート <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「科学研究費の応募方法」に関する講習会は、本学教員が講師となり2回実施 ・「シラバスの書き方」に関する講習会は、本学教員が講師となり実施 ・本学の教員が講師となり「研究発表会」を実施 ・研究倫理教育「APRIN eラーニングプログラム」に関する説明会を実施後、全教職員を登録し、原則、全員、Web講義を受講 ・四国内の大学等で開催された「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」FD研修会を受講 ・四国内の大学等で開催された「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」SD研修会を受講 ・大阪で開催された「理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設職員等講習会」の受講 ・学生による授業評価アンケートを前期と後期で年2回実施

- c 開催状況（教員の参加状況含む）
- ・FD委員会は、令和元年5月23日と11月19日の2回開催。
 - ・「科学研究費の応募方法」に関する講習会は、令和元年8月13日、10月1日、10月8日に開催（延参加人数：88名）
 - ・「シラバスの書き方」に関する講習会を令和元年12月24日に開催（参加人数：30名）
 - ・研究発表会は、令和元年8月13日、10月1日、12月3日、令和2年2月18日に開催（延参加人数：124名）
 - ・研究倫理教育「APRIN eラーニングプログラム」に関する説明会を全教職員に行い、全教職員を登録した。前任校で修了した教員以外、次年度就任予定者を含め53名の教職員が修了
 - ・「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」FD研修会：延参加人数21名
 - ・「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」SD研修会：延参加人数12名
 - ・「理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教職員等講習会」受講者2名
 - ・授業評価アンケート実施：令和元年7月及び令和2年1月に実施
- d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況
- ・「科学研究費の応募方法」に関する講習会による科研費申請の促進
 - ・「シラバスの書き方」に関する講習会により、シラバス記入方法の統一化
 - ・研究発表を通じて、研究内容の共有及び共同研究を促進
 - ・「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」FD・SD研修会により先進的な教育実践を啓発
 - ・「APRIN eラーニングプログラム」を通じて全職員に対する研究倫理の啓発
 - ・「理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教職員等講習会」を受講による教育の質的向上
 - ・授業評価アンケート結果の分析を行い、授業内容改善に活用
- ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況
- a 実施の有無及び実施時期
- ・令和元年7月及び令和2年1月に実施
 - 専任教員25科目、兼任教員29科目について対象とした
- b 教員や学生への公開状況、方法等
- ・専攻ごとに集計を行い、教職員全体で内容を共有することを予定している。学生に対してはアンケート結果をグラフ化し、ホームページに掲載する予定である。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
 「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

- ① 体制
- a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）
- 設置状況…産業界及び地域社会等と連携して教育課程の編成をするために、学長のもとに「教育課程連携協議会」を設置した。教育課程連携協議会設置規程（平成31年4月1日施行）
- 構成員の交代…構成区分 地域 土佐市健康づくり課長 交代の為
 森本悦郎から合田聖子に変更した。（令和元年11月）
- b 委員会の開催状況（回数や開催日など）
- 令和元年12月27日開催
- c 委員会の審議事項等
1. 諸規程及び、委員長と委員の選出について
 2. 専門職大学について
 3. 教育課程について
 4. 展開科目について
 5. 単位数の確認について
 6. 地域との連携について
 7. 完成年度後の構想について
- 審議事項について、基本的な事項の確認や今後の見通しを含め、議論を行った。
- d その他
- 該当なし
- ② 審議状況
- a 審議した内容
- 各専攻よりの展開科目設定の経緯、趣旨等教育課程の説明に対しては、質疑応答にとどまり、審議事項とはならなかった。今後開催する教育課程連携協議会により教育課程の編成に対し審議を行っていく。
- b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況
- 各区分委員からの学生との関わりについての意見を踏まえ、地域あるいは色々な関係機関の行事等を取り入れた教育への協力を要請した。
- c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況
- 令和元年度においては、基礎的科目が中心であったため、今後、地域等との関わりを持った授業について検討予定である。

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
 本学は、開学1年が経過しており、大学設置認可申請書に記載した内容に基づき、教育研究活動等の状況について、自ら点検し評価を行うために「自己点検・評価委員会」を設置している。自己点検・評価委員会において本学の目標達成状況を把握するため、令和2年3月に自己点検を行った。
 その結果、使命・目的及び教育目的の反映の項目の、「中・長期的な計画への反映」について策定の必要性がある。「学修支援」においても教職員の協働による学修支援の体制の整備が急がれる。学生の学修環境の整備において、新型コロナウイルスの影響を考えた遠隔授業の方法についての検討も急がれる。「教学マネジメントの機能性」においては、学長のリーダーシップの確立・意思決定に対して、更なる教職員との意思疎通向上に努めることが肝要となる。また、分散する学務内容の再整理を行い、適切な分散と統合と責任を明確化する体制の再構築する必要性がある。
 今回の点検結果から出てきた課題解決のための検討や体制整備を行ってゆくとともに、新たに改善すべき点を明らかにし、専門職大学の特性を活かしながら設置の趣旨、目的を遵守した大学運営を行ってゆきたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期
 ・令和3年4月末 公表予定

b 公表方法
 ・大学ホームページ上に公開予定（令和3年4月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画
 ・令和4年に評価機関（公益財団法人日本高等教育評価機構）の評価を受けるべく、学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
 また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
 なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

＜aで「有」の場合＞

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

＜aで公表「無」の場合＞

d 公表しない理由 [()]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイトに掲載するなど、積極的な情報提供をお願いします。

コロナウイルス事案の特記事項

①開講時期の変更を検討中の科目及び変更する科目について

・理学療法学・作業療法学・言語聴覚学専攻2年次科目「理学療法臨床実習Ⅰ」・「作業療法臨床実習Ⅰ」・「言語療法臨床実習Ⅰ」の科目につきましては、当初9月実施を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況を見極めながら、時期の変更も含めて検討しております。

・作業療法学専攻2年次科目「作業療法評価実習Ⅱ（精神・認知系）」の科目につきまして、専任教員と兼任講師の共同授業である。兼任講師が、大阪に在住しており、新型コロナウイルスの感染拡大により外出自粛要請が出されていることもあり、高知県へ授業に来てもらうことができないため、開講時期を「2前」から「2後」に変更して授業を実施します。

② 遠隔授業を実施中の科目

4月2・3日にオリエンテーションを実施しましたが、高知県の新型コロナウイルス感染拡大に伴い、4月6日から4月23日まで休校措置をとっておりました。4月24日以降は対面授業を行わず、教材やレポート課題、オンデマンド授業に必要な資料等を送付し遠隔授業による自宅学習を実施しています。

疑問・質問等については、各科目担当教員がメールにて回答するようにしています。

現在実施中の科目は以下のとおりです。

各専攻1年次生共通科目

「情報処理演習Ⅰ」・「コミュニケーション論」・「リハビリテーション概論」
「解剖学Ⅰ」・「健康科学」・「心理学」
選択科目 「英語Ⅱ」

理学療法学専攻1年次科目

「理学療法概論」・「理学療法概論演習」

作業療法学専攻1年次科目

「作業療法概論」・「基礎作業学実習」・「生活活動と障害」

言語聴覚学専攻1年次科目

「言語聴覚障害学総論Ⅰ」

理学療法学専攻2年次科目

「運動生理学実習」・「理学療法セミナーⅡ（PBL）」・「理学療法運動学演習」
「臨床心理学」・「理学療法日常生活活動学」・「物理療法学」・「運動療法学」
「理学療法測定実習Ⅰ」・「理学療法検査実習Ⅰ」

作業療法学専攻2年次科目

「精神医学」・「作業療法日常生活活動学」・「臨床作業療法技法実習Ⅰ（PBL）」
「作業療法評価実習Ⅰ（身体系）」・「作業分析学」・「作業療法運動学演習」
「基礎作業療法評価学」・「運動生理学実習」・「地域作業療法学」

言語聴覚学専攻2年次科目

「言語発達障害検査実習」・「言語聴覚療法セミナーⅠ」

※なお、オンデマンド授業につきましては、パソコンやスマートフォンでダウンロード閲覧可能な授業を5月25日以降準備が整った科目から順次配信する予定です。

対面授業開始は6月8日の開始を予定しています。

③ 開講時期の変更にかかる学生への配慮

作業療法学専攻2年次科目「作業療法評価実習Ⅱ（精神・認知系）」開講時期の変更に伴い、後期配置科目数の学生への負担が増えないよう、「地域作業療法学」を「2後」から「2前」に変更しています。同一学年内での変更であり、教育課程の体系性への影響はなく、学生に対しても、十分に説明を行うため教育効果に支障は生じません。

高知リハビリテーション専門職大学

【設置計画履行状況報告書・補足説明資料(専門職大学等)】

(共通留意事項)

- 「認可(設置)時の計画」には認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」で記載した計画を記入ください。
- 認可申請書に記載がなければ「記載なし」と記入ください。
- 「履行状況」には報告時点で取り組んでいる事項(準備状況含む)を記入ください。
その際、「認可(設置)時の計画」から変更している場合は、変更した理由を具体的に記入ください。

① 入学者選抜

認可(設置)時の計画	履 行 状 況
<p>・ 多様性に配慮した選抜の実施有無、実施方法(定員枠、入試科目)</p> <p>大学入学者の選抜は、大学教育を受けるのに相応しい能力、適性を多面的・総合的に評価し、公正かつ妥当な方法で実施する。求める人物像として「知識・教養」「思考・判断力」「協働性」「探究心」「関心・意欲」の5つの観点に整理した。これらのアドミッション・ポリシーと入学者選抜方法を連動させた。入試方法については、「一般入試」「AO入試選考」「指定校推薦」「公募制推薦」「社会人選考」の5つとする。</p> <p>AO入試においては、学力だけでなく、個性や創造性が豊かで、意欲にあふれた学生を受け入れる。</p> <p>選抜方法は、本学でのゼミナール(講義と演習)を修了した者の中からゼミナールの成績、面接、志望理由書、活動報告書を資料とし総合判定する。(募集人員:理学療法専攻14名、作業療法専攻8名、言語聴覚専攻8名)</p> <p>・ 社会人選抜の実施有無、実施方法(定員枠、入試科目)</p> <p>社会人選考は、下記のいずれかに該当する者で、将来、保健医療専門職として働く意欲を持って学ぶことができる者に対して、学力試験を免除し、小論文及び面接、志望理由書の内容を総合的に判定して行う。</p> <p>a.大学入試資格を有する者で、社会人として2年以上の経験のある者 b.大学を卒業した者あるいは3月卒業見込みの者 c.短期大学を卒業後、社会人として1年以上経験のある者 d.高等専門学校を卒業後、社会人として1年以上経験のある者 (募集人員:公募制推薦入試に含む。公募制推薦入試の募集人員:理学療法専攻7名、作業療法専攻4名、言語聴覚専攻4名)</p>	<p>※入学者選抜において実際に各項目に該当する選抜を実施していればの結果と受験者や合格者の内訳を差支えない範囲で記入ください。</p> <p><令和2年度 AO入試 各専攻受験者・合格者内訳> 理学療法専攻:受験者 14名・合格者13名 作業療法専攻:受験者 11名・合格者 8名 言語聴覚専攻:受験者 6名・合格者 9名(別専攻から2次志望による合格者含む)</p> <p><令和2年度 社会人入試 各専攻受験者・合格者内訳> 理学療法専攻:受験者 0名・合格者 0名 作業療法専攻:受験者 1名・合格者 0名 言語聴覚専攻:受験者 0名・合格者 0名</p>

② 臨地実務実習

認可(設置)時の計画	履 行 状 況																				
<p>・ 実習先の確保の状況</p> <p>本学の臨床実習受け入れを承諾した施設は下記に示しているが、高知県を中心に西日本をはじめとする全国各地の施設からの承諾を受け、各専攻における臨床実習目標に対応できるよう臨床実習施設を確保している。各専攻の臨地実務実習施設の地域別割合は、下記(各専攻の臨地実務実習施設の地域別割合)の通りである。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">理学療法専攻</th> <th style="text-align: center;">作業療法専攻</th> <th style="text-align: center;">言語聴覚専攻</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総 数</td> <td style="text-align: center;">118施設</td> <td style="text-align: center;">112施設</td> <td style="text-align: center;">96施設</td> </tr> <tr> <td>高知県</td> <td style="text-align: center;">60施設(50.8%)</td> <td style="text-align: center;">71施設(63.4%)</td> <td style="text-align: center;">48施設(50.0%)</td> </tr> <tr> <td>四国3県</td> <td style="text-align: center;">16施設(13.6%)</td> <td style="text-align: center;">22施設(19.5%)</td> <td style="text-align: center;">21施設(21.9%)</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: center;">42施設(35.6%)</td> <td style="text-align: center;">19施設(16.8%)</td> <td style="text-align: center;">27施設(28.1%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ 実習水準の確保の方策</p> <p>臨床実習委員会を設置し、臨床実習水準を確保するため、臨床実習指導体制、および臨床実習受け入れ施設との連携体制の構築を行うとともに、学生に対しては、臨床実習オリエンテーションを通して、臨床実習の目的を周知し、学生の不安を軽減し、早期に問題対応できる体制を構築する。</p> <p>臨床実習にかかる教員と受け入れ施設の臨床実習指導者等で構成される臨床実習指導者協議会を年1回開催し、参加者の臨床実習運営に関わる情報交換をするとともに、臨床実習における学修成果の評価を共有し、課題の検討を大学側と受け入れ施設側で行う。その結果を受けて、次年度の臨床実習を計画することにより、学修環境や指導体制の改善に繋げることができる。その上で、臨床実習指導においては、大学側と臨床実習指導者とが緊密に連絡をとり、より高い学修効果が得られるよう臨床実習環境を整える。各専攻の臨床実習指導者は、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士としての10年以上の実務経験と高い実践能力を有し、学生の行動の規範となる手本を示すことのできる者である。</p> <p>・ 実習先との連携体制</p> <p>大学臨床実習担当教員と臨床実習指導者は適時連絡を取り合い、学生指導及び臨床実習全般の調整を行う。臨床実習担当者による臨床実習巡回指導では、大学と臨床実習施設との情報交換、連携が十分に図れる体制をとる。</p> <p>また、専任教員は巡回指導時以外にも臨床実習指導者ならびに学生と1週間に1回程度定期的に連絡をとり、臨床実習の状況を確認するとともに、学生及び臨床実習指導者が抱える悩みや問題等について指導・援助できる体制をとる。</p>		理学療法専攻	作業療法専攻	言語聴覚専攻	総 数	118施設	112施設	96施設	高知県	60施設(50.8%)	71施設(63.4%)	48施設(50.0%)	四国3県	16施設(13.6%)	22施設(19.5%)	21施設(21.9%)	その他	42施設(35.6%)	19施設(16.8%)	27施設(28.1%)	<p>※実施した結果生じた課題があれば、その解決策として講じた措置についても記入ください。</p> <p>未実施</p> <p>未実施</p> <p>未実施</p>
	理学療法専攻	作業療法専攻	言語聴覚専攻																		
総 数	118施設	112施設	96施設																		
高知県	60施設(50.8%)	71施設(63.4%)	48施設(50.0%)																		
四国3県	16施設(13.6%)	22施設(19.5%)	21施設(21.9%)																		
その他	42施設(35.6%)	19施設(16.8%)	27施設(28.1%)																		

高知リハビリテーション専門職大学

③ その他

認 可 (設 置) 時 の 計 画	履 行 状 況
・ 同時に授業を行う学生数が40人を超える場合に講じる措置	※実際に実施した結果生じた課題があれば、その解決策として講じた措置についても記入ください。